新女界

明治四十四年四月一日發行（毎月一回一日發行）
（三月二十八日印刷納本）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

主筆　安井哲子

東京　新人社　發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第參卷第四號目次

◎社說

◎奮闘と慰安　安井哲

◎講壇

◎柔和の福音　海老名彈正

◎想苑

◎婦人解放の是非　宮田脩

◎佐久間大尉の手紙　德富健次郎

◎獨逸見聞錄　吉野作造

◎ヤンキーガール　海老名一雄

◎四角な口　不喚一樓

◎砂の上より　野口せい子

◎家庭

◎子女敎育に對する母の務　海老名みや

◎卒業と結婚　赤星仙太

◎亡き夫の想ひ出　小林あや

◎家庭衞生談　弘田ます

◎婦人の力　桑木嚴翼

◎隨感

◎音聲と言語　海老名みや

◎多忙なる人の心がけ　安井哲

◎湯臺叢話　谷津直秀

◎編輯局より

交際場裡に文明の美花を開かるゝ紳士も奥さんも孃さんも香り深き千代田香油に限るとの高評盛んなり

定價　七十錢　卅五錢　廿五錢　十七錢

試用見本郵劵代用あれ

スワン石鹼

純白で湯水に浮き價安くて品の善いスワン石鹼は至る處の小間物、化粧品藥舖にあり　定價廿二錢

東京馬喰町四丁目

スワン石鹼日本一手販賣

山岸三之助

電話浪花三七九三

振替口座一九九七八

第參卷第四號

奮鬪と慰安

安井哲

此世は實に忙しい世の中であります。兒童も成人も、男子も女子も、或は學習や職業に、或は公務や家事に、朝から晩まで一生懸命に從事せねばなりません。月曜日から土曜日まで、主人と子供は毎日外に働き、妻と母親とは朝に彼等を送つて夕に彼等を迎へ、日曜日となつて初めて家族打揃つて晝飯を樂しみ得るのでありますが、かゝる人々は皆其境遇に伴ふ種々の困難と相鬪はねばなりません。卽子供は學業の良成績を得んがために、一生懸命に競爭をせねばならず、主人は自己及家族發展の爲めに奮鬪せねばならず、妻母は家事の整理や兒童敎育のために、種々なる困難と鬪はねばなりません。併吾々は心を張りつめた生活のみに堪へ得る者ではありませんから、時々は心を和げ慰むる者を要求致します。慰安は實に奮鬪的精神に活氣を與ふる大切な者である事

は、私が改めて茲に申すまでも御座いません。

そこで此慰安とは一體如何なる者であるかといふ事を研究して見ますと、人々に依つて其性質が違つて居ます。或私の知人は劇職にある者でありますが曾て私が「御職務上種々の御心配がおありでせう」と申したのに答へて、「夫故晩食に酒でも飲んで慰めます」と云はれましたが、之れも一種の慰安でありませう。概して生活の華美な者は、家長も主婦も、慰安を美食や美衣に求めんとする傾がありますが、之れのみで眞の滿足が得られませうか。かゝる人々は却つて其慰安の結果として、或は病苦或は精神的墮落に陷り、家庭に不快の空氣を引き入れる例は往々見る所であります。

然るに若妻が外に働く夫の苦勞を察し、深き同情を以て深切に夫を慰めます時には、男子は心の平和と滿足とを得て、再奮闘場裡に活動せんとする勇氣の養はれる者であります。夫も亦終日家に在つて吾が爲め家族の爲めに齷齪働く妻に對して、深く同情し常に感謝の意を表すれば、女子は變化少き日々の仕事にも一種の興味と希望とを認めて、喜んで働かんとするの勇氣を生ずる者であります。

そこで此慰安は獨り夫婦間に止りません。他人を使ふ者使はるゝ者、敎ふる者習ふ者の間にも亦最必要で、其事業發展の爲めに、上の者は下の者に種々の仕事を命じますが、能く其勞苦を察して、時々彼等に一言の慰安を與へますと、使はるゝ者は喜んで其命に服し、一身を捧げても其人を助けんと決心する者であります。或は又敎師が生徒の勤勉を賞し、其苦勞に同情すれば、彼等は益忠實なる學生たらんと覺悟する者であります。

然らば若我々が其周圍の誰からも慰安を受けなかつたとしたならば、我々には職務を忠實に果さんとする元氣と勇氣とが全くなくなるであらうかと云ふ事が問題であります。世の中には不幸にして、其親に愛せられず、他人にも顧みられぬ人もありますが其れでも尚一の慰安があります。即心を平かにし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

てかゝる境遇を與へられたる眞意は何處にあるかを考へれば、云ふに云はれぬ生活の味が其處に出て來て、希望の光が遙に輝き、無限の樂しみを感じて來る者であります。昔は武士が其藩主から相當の食祿を與へられて之れに滿足し、「假令祿は少くとも、家は小さくとも、君から與へられた者であれば、少しも耻づるどころではない、深く感謝せねばならぬ」といつて、大祿の者同樣に、忠實に君に仕へましたが此平和な献身的な美くしい精神が、即我々が生活に對する精神で、之れを覺つた人は、如何なる平凡な仕事に從事して居ても、之れに他人の知らぬ興味を見出し、之れに從事する高尚な精神と共に、其仕事に一種の價値を加へる樣になる者であります。

要するに吾々の生活は社會の進歩發展と共に、益多忙となり、益多くの困難と戰はねばなりませんが、之れと同時に能く此奮闘に堪ふる勇氣と元氣とを養ふ精神的慰安が必要となつてまゐります。其故吾々は互に其周圍の人々に對して、同情と深切とを與へねばなりませんが、假令不幸にして吾自身は他人より是等を惠まれぬとしても、一度眼を轉ずる時には、無限の慰安を自ら見出し得るのみならず、吾生活の眞價と、永遠の希望と、絶えざる奮闘とが同時に之れに伴ふ事を發見するのであります。

花はひとへなるよし、八重櫻は奈良のみやこにのみありけるを、このごろぞ、世に多くなり侍る。吉野の花、左近の櫻、みなひとへにてこそあれ。八重櫻はことやうのものなり、いとこちたくねぢけたり、うゑずともありなん。おそざくらまたすさまし、虫のつきたるもむづかし。（兼好）

新女界　第參卷　第四號

柔和の音福

海老名彈正

△理想と忍耐

柔和の德は舊約の時代創世記の物語より凡てを貫き、又新約聖書の中にも常に歌はれてあるので、其德の代身ともいふべき人が各所に現はされて居る。基督の仰せになる「柔和なる者が地を嗣ぐ」といふ如き尊き柔和の德は、新約書舊約書を問はず實に麗はしい一種の福音を傳へて居る。天地の神を我が神と仰ぎ奉る者の心の中に自然に發する所のもので、其源は中々深いのである。柔和と言へば唯々柔弱にして主義も主張もなく氣骨の乏しい卑屈な樣に思はるゝかも知れぬが、斯る見方は甚だ淺墓な考で決して信仰に基づく見解ではない。眞の柔和の衷には思はぬ所に案外深い強いものが在る。

第一は神樣に對して神の取扱に不平とか苦情又は小事を申上げぬ誠に素直な狀態である。一體神の御業は誠に前途遼遠で何もかも永い期間であつて、人間の短兵急な性情には隨分と手間取る樣な感がする。神の尊い御性格と其の事業とが吾々人間に現はに成つて來るまでには、實に多くの時間永い時代を要するのである。例へば神の國が人間社會に來る高い理想は遠き〳〵昔に授けられて居るので、支那の

聖人の中にも早く此の理想を認めて王道といふ事を唱へて居る、又希臘の聖人プラトンも此の尊い理想を謳つて居る。基督教の所謂神の國の理想とは其言ひ表はし方が大分違つて居るが雄大なる民族の中に示されて居る、殊に舊約書にある幾多の豫言者は聲を限りに此の理想を謳歌した。かゝる高き理想は直ちに實現せらるゝものでない、初めは只想像の上にのみ在るので、容易に實現し來らぬ。故に凡て理想に生活する人とては非常なる忍耐を要する。又此る理想を抱く人は一の夢想者として敬遠さるゝのみならず現在社會に於て往々悲慘な虐待を蒙むる。而して天を怨みず人をも尤めざるは正しく柔和である。故に神の國が此の社會に來るべき事を信ずる者に取りては誠に苦しい譯である。二代三代では容易に現はれて來ぬ、而も恰度眼前に在る如くに奮闘せねばならぬ、實に一大事業である。故に一層氣長い考が無ければならぬ。

△一種の見識

吾々は強ち此の如き大きい理想でなくとも日々正しい事をして人生を送るには、世間では中々衝突が起つて來る、或は夫が爲めに面白くないことも起る直しい道を踏むは中々骨の折る事柄である。彼の小智しい商人なぞが一時遁の事をして奇利を博することが少くない、故に不正手段は成功の秘訣の如くに誤られる者が多い。是は何うしても事情の弱點である。正義を歩み神に委すことは頗る迂り遠い樣に思い做す傾がある。併し眞の柔和の德は信仰から生れて來るので、如何なる逆境に遭遇ふことも神に信賴して將來を希望み、二十年五十年否な死後までも神の御旨を期待し「我も亦働らくなり」といふ考で神の御事業に與かる所に伴ふものである。故に忍耐の外に一種の見識が伴ふて來ねばならぬ。即ち正しい者が必ず勝つ、如何に失敗するも終には必ず勝利を得るといふ達見が無ければならぬ。或る時は十年

或る時は百年又或る時は實に千年後の觀識を要する事がある。此る遠大なる見識は神を信ずる者には必ず神が之を吾々に賜はる所で、實に信仰とは未だ觀ざるものを眞とする高き識見である。この未だ見ざるものを眞として神を信ずる事が、人の知識に依るに非ざれば不可能の事であるとすれば到底凡人には出來ぬ事である。併し信ずるといふことは如何な凡人にでも出來る話である。例へば親が其子を育てる上にも一種の信仰を置いて居る。卽ち其子は成長するものであると知ず識ずの中に信じて居る。此の如く事業家が事業を始める上にも其成功を信じて掛ることが必要である。是れ則ち達觀である。神が人に信仰を與へ給ふは不平なく不滿なく此の人生を送らしむる爲めであつて、恰も子供なぞが先き〴〵を知らずして父母に向つて不平を云ふ時に、此處に父が居る母が居るからと云つて父母を信ぜしむる様に神は吾々を其子として取扱ひ給ふのであるから、吾々は神に對しては何處までも柔和でなければならぬ從つて神を信ずる柔和の中には自ら強い自覺が生じて來る。

△意志と柔和

今又此の柔和といふことを自分に取つて見れば、強い意志を要する。卽ち自制心が無ければならぬ。吾々には實に御し難い慾情、肉に就ける情慾がある之を制するには、又非常な力を要し一度制し切つた時には偉大なる勢力を得て來るので、昔の武士が肉體の慾を制することに依つて一種の柔和の狀態を保つことが出來た。腹は減つてもひもじくないといふ様に小さい時から制して居るから泣事を言はぬ、勿論是は餘りに我慢過ぎて居るが、兎に角慾情を制する意志の力に依つて自分を引き緊めて來た。人間には時として非常なる憤怒の情火が燃ゆることがある神に對し或は親に對して往々にして腹を立てる。此の怒を抑へ付ける力は自分の意志の外はない。怒の外に人には又怨恨といふ様な一種強烈な感情がある

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

正しき我が何故に斯くまで苦しむかとは神を信ずる人の口からすらも往々にして出る。世を斷念た人絕望の狀態に在る人には恨はない、從つて神もなければ又愛もない。是は實に底冷たい死の生活である。併し神を信ずる人には時として斷念といふよりも恨の情が出る、不平が言い度なる。詩篇の第七十三章には此の恨言が詠たてある。併し更らに一轉して其恨を悔いて居る。自ら抑ゆる強い意志無んば柔和を保つことは不可能である。

要するに吾々が神に事へる狀態は常に精神上の奮鬪を續けて忍耐を加へ、信仰より信仰に進みて益々意志を鞏固にし、見識を高めて行くのが柔和の德で舊約新約を通じて最後の幸福を神より受けて居る。實に地を嗣ぐことの出來る人である。世界の世繼人である。不正なる手段に由りて所有する土地は僅か一坪と雖も、又如何に法律上に於ては所有權を認めらるゝにも道德上神に對しては何等の權利をも有せない。是は地を嗣ぐ意味ではない。基督が「人なんぢの右の頰を批ば亦ほかの頰をも轉して之に向よ」と仰せらるゝ、誰か擊たれて怒らざる者が有る乎。而も之をも制するは中々強い意志を要する。而して又泰然自若として又外の頰を向けるに至つては實に其態度千萬の軍勢に優る威力である。

△迫ざる態度

惡に敵せずして自ら制するは、強健なる意志を有する人の柔和である。此る柔和は神を信ずる人に於て、「神我と共に在り」との深き信念より流れ出づる餘裕ある狀態である。下着を取らんとする者に又上衣をも與へ、一里の公役を强ゆる者に之と共に二里行く態度には誠に悠々たる廣さが在る。爰に眞の柔和がある。彼のモーセは非常に柔和な人であつた。併し只た一度柔和を缺いて、水を出す爲め餘りに强く其杖を以て岩を擊つたが爲めに、終にカナンの土地に入ることが出來なかつたと傳へる。常に柔和であることは如何に六ケ敷いか、殊に今日の若き人に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は特に此の德を養はねばならぬ。殊に日本人は從來敵愾心に充ちて、動ともすれば鼓をならして他人を攻め立てゝ來たのであるから、忽ちにして刄をも取り兼ねまじき短氣淺慮の人が多い。又婦人には不貞腐といふ一種の驕慢がある。之を破らねば偉大なる人偉人なる國民とは何しても成ることは出來ぬ。馬にしても日本の馬は非常に暴々しい、是に引き換へて歐米の馬は非常に優しくして御し易い。其は馬を役ふ人が柔和であるから從つて馬も柔和なのである日本の馬子の亂暴なるは吾々が常に街道に於て見る所である。故に馬も荒々しく成るのである。犬でも日本の犬は喧嘩ばかりする是れ皆日本人の性格を示して居る。故に吾々は精神上一變して柔和に成らねばならぬ。「我は柔和にして心謙遜れる者なれば」といふ基督の柔和を學ばねばならぬ。是が大國民の態度であつて神の約束し給ひし地を嗣ぐべき人の態度である。吾々は先づ此の修養に心懸け、事苟も柔和を破る虞あらば飽くまで自ら之を制し、神の子の性格を汚さゞらんことを努めねばならぬ。地を嗣がせ給ふ柔和の福音は神が特に吾々に示し給ふ所である一時片時も此の柔和を缺いてはならぬ。男子といはず女子と云はず柔和の餘裕を有して富士の如く高潔に、又大洋の如く曠き人格と成らねばならぬ。

此は三月二十八日の事なれば、海路はるかに霞みわたり、哀を催すたぐひかな、只大方の春だにも、暮れ行く空は物うきに、况や是は今日を最後、只今限のことなれば、さこそは心細かりけめ。沖の釣舟の波に消え入るやう覺ゆるが、さすが沈みもはてぬを見給ふにつけても、御身の上とや思はれけん。（平家物語）

婦人解放の是非

宮田脩

一

巨萬の富も、富其ものは決して幸福でない。王者の權力も、權力其ものは決して幸福でない。自己の意志を自由に働かし得る資料になつてこそ幸福ともなり快樂ともなれ、單獨なる富や權力は描かれた美菓の様なもので、夫が直に人生の幸福と交渉するものではない。眞に人生の幸福となるべき要素は、唯一つ、自由そのものに外ならぬ。だから自由を得たいと云ふ望みは、萬人が萬人の望みで、而も其欲望中の最大欲望である。古來之を得んが爲めに、身命を抛つた者の尠くないのも、敢て怪むに足らない。西班牙の文豪セルヷンテスは『自由は天が人に與へた最も貴重な賜物の一つである。束縛は彼を貶し得る最大罪惡である』と云つたが、是亦一面の觀方である。とにかく附與されたものを得やうとするのは各自が當然有する權利である。であるから近世の婦人が、古來の束縛された境遇から脫して、自己意識の働くまゝに自由を求めやうとする希望を懷いて來たのは、つまり與へられたものを得やうとする意識が働いて來たので、何も殊更に驚くほどの問題ではない。否な寧ろ今日まで婦人の意識作用がこゝに思

ひ至らなかつたことを、反て不思議とすべきである

二

たしかナショナル讀本の第二卷であつたかと思ふ檻に育つた小豚が、偶々庭に出て天下の廣大なことを知つた話が出て居る。從來の婦人はまるで此小豚のやうなものであつた。檻の中に生れて是以外に觸れなかつた間は、人生を此小範圍のものと知つて滿足して居たが、だん／＼知識も發達して自ら從來の小天地と異つた、廣い自由な而も光明の輝き渡つて居る別の境遇を知つた以上は、最早元の薄暗い狹い邪魔物の多い生活に滿足が出來なくなつたのが、卽ち今日の婦人の狀態であつて、爰に舊窠を脫して新らしい世界に羽翼をのばして見たいと願うのは、寧ろあり得べき順序ではあるまいか。して見れば女子の解放問題は、當然來るべき要求であるから、社會は之に反對するばかりでなく、寧ろ自然の儘に委せて置く方がよい筈である。尤も男子の側から見ると從來は惟命是從うと云ふ位置に在つたものが、代つて對等になつて來るのだから、萬事が不便になるのは見易い道理である。從つて反對の議論の起るのも止むを得まい。然し自分は我が都合のみを圖つて、他人が當然要求し得らるべき權利を恣に蹂躙する樣な、そんな專制的の考には與みし惡い。

三

然し解放の時機、範圍若くは内容の如何については、大に研究すべき餘地があると思ふ。卽ちイプセンの『人形の家』のノラや、ショーの『ワォーレン夫人の職業』のヴイヴイの樣に、全然速座に女子の心の儘に自由の行動を採らしめることが、果して男女相互の爲めの利益であるか怎うかと云ふ問題である。若し女子、特にそんな思想に養はれた人に云はしめれば、既に夫だけの自覺がつけば時と場所とに關係なく、何時でも解放されべきものであつて、社會も之に承認を與へるのが當然であると考へるかも知れ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぬ。然し自覺と實行とは必しも連續しない。其中間には準備を要する。殊に因習の久しきに亘つた事件の改革には十二分の準備を要する。此準備を缺いた實行は徒らに多大の障礙を生じ、却て瘡痍を身に受けて不成功に終るものである。今女子の解放と云ふことも、既に女子自身の意識内には入つて來た。立派に自覺の域に達して來たことは否み得ない。然し此思想は極く新らしいものであつて、云はゞ最初の光とは見られるが、まだ社會民衆に染み込んだ熟した思想とは思はれない、恐らく一部のもの以外の女子自身の頭にも、熟しては居らぬことと思ふ。

四

こう云ふと一部の急激な解放論者は、假令未熟な思想であつても、既に自覺した以上は次に來るものが實行であるから、よしや惡戰苦鬪しても自己の權利は拋棄すべきでないと思ふかも知れぬ。否な思ふに違ひない。元より當然の權利は拋棄すべきもので

ない。且つ改革の前には必ず多少の動揺はあるのであるから、そんなことを恐れて居ては時期を失してしまうかも知れない。けれど佛蘭西の大革命も一朝にして起つたのでなく、王政復古の大革命も既に二百年前から準備されたことを思へば、女子の自由解放主義も、亦急激には實行されべきものでないことがわからう。兎にかく此説は勿論認めなければならぬ説であつて、而も既に認められかゝつて居る以上は、今日に處する女子の態度は、臥薪嘗膽徐ろに控へて、十二分の準備を積んでおくべき時期であると思ふ。

五

最近英國に行はれる婦人の政治的示威運動が、中々劇烈な調子に行つて居ることは、殆ど何人も知つて居るところである。其行動の壯烈なこと、其運動の敏捷なこと、其團結の强固なこと、また何人も驚いて居るところである。而も從來の因循な女性的生活のリコードを破つた此運動は、確に時代の特産であつて且つ勢の趨くところ止むに止まれぬ事情から爆發したものと思ふ。然し夫にしたところで、其本國には勿論世界の一般から同情を失つた所以のものは、單に男性が女性に對する權力競爭の結果ではなくて、男子と平等な權利を得るには、未だ之に相當した義務を拂つて居ないからではあるまいか。凡そ權利を得るには義務の先行がなくてはならぬ。義務を缺いて權利を得やうとするのは、餘りに虫がいゝ話ではないか。女子が其解放を要求する前には何時解放されても獨立獨行、男子に賴り男子に縋らなくても濟む資格が具はらなくてはならぬ。資格もなくて徒に喧號するのは、決して策の得たものではない。聖人エマーソンは『自由は晩熟の果實である決して安直のものではない。自由は人間の成就完成であるから難くされて居るのである。』と云つて居るが、味ふべき名句ではないか。今の自由解放を得やうとするものは、須らく走つて自己の人格を耕し．

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

先づ其存在と價値とを認められる工夫に苦心するが早道である。人格の光の耀くところ、其存在は認められ、其存在の價値の承認されるところ解放は求めずして來るべきである。

六

次にもう一つ考ふべきは解放の内容である。或論者は全然男女を平等に見て、男子の行うところ女子も之を行ひ、男性の能ふところ女子も能ふかの如く論ずる人もあるが、是は男女と云ふ特殊の兩性を作つた天意に叛くことを思ふ。男子の能力にして女子の能力に及ばない點がある如く、女子の能力にして男子の能力に伴はぬもののあるは明瞭なことである。勿論從來は女子の能力を餘りに没却して、毫も其價値を認めなかつた弊は極めて偏頗な處置で、且つ女子を誤つて居た所は大に改められなければならぬが前後の關係も思はないで忽ち之を無差別に解し去らうとするのは、甚しい不合理と思ふ。自分の考へるところでは、男子には男子として求める自由の存する如く、女子には女子として求める自由が伏することを信ずる。故に此點の解釋については、男女共に根本的の自覺を得た上で決めなければならぬ。徒に抽象的の概念にのみ走つて、具體的の内容を混同してはならぬ。なほ此ことについては大に論じなければならぬが、餘り長くなるから他日を期することにする。

佐久間大尉の手紙

徳富健次郎

昨年四月十五日、呉軍港で第六號潜航水雷艇が沈没し、乘組一同悲壯の死を遂げた。其時艇長佐久間大尉が苦しい息の下から、沈没の原因、部下の働きを周到に書きとめ、剰へ部下の遺族の後々の事ま

でくれ〴〵も　天皇陛下に斷つた手帳の遺書は、其當時日本國中の新聞に掲載されて、血ある程の者は皆英雄魂の電氣にうたれた。一周忌も近き今日、圖らず大尉夫妻の手紙を得たので「新女界」に出すことにした。手紙は皆富山高等女學校で佐久間夫人の師であつた某女史に寄せたものである。

(一)明治四十一年一月新婚旅行中夫人から某女史へ

其後如何ですか、先達てはまことに恐れ入ました。私事豫定以外に當地へ參り諸所見物いたし居候。明日頃出發靜岡を經て上京いたすべく候。いづれまたゆる〳〵と、まづは旅行中より。

一月六日　　奈　良

次　子

なつかしき師の君

(二)　同年十月佐久間夫人から某女史へ

みだれ書きにて一筆申上候。其後は誠に〳〵意外の御無沙汰に上げ居候ひしが先生にはいかゞ御暮し遊ばされ候や。先達より一度御うかゞひいたさん〳〵と思ひながら、何やかやと取まぎれ、つひ〳〵今日まで失禮いたし居候段あしからず御許し下され度候今年暑中にも〇〇樣と御一處に是非〳〵御訪れ致すべき考に御座候處、當家みな〳〵湯治に出掛けるすを申付けられかれこれいたすうちに休暇もすぎ去り、途に〳〵殘念ながら御めもじの機を失ひ今更くやみ居候。其内私事また〳〵ぶら〳〵といたし居候處、全く妊娠のためとわかり實に〳〵思ひかけなきことにて、皆々驚ろき、あまり等閑に過しおきしことよと案じ居候ひしも、別段に申分も御座なく今日に至り居候まゝ何卒御安心下され度、あまりにはやくみもちと相成私事自分さへまだ少しの素養もなきに、小供など出來なばいかにせんと、其れのみ氣にかゝり、先生などにも御はづかしくてなりませんけれども、致方も御座なく候。主人も米艦接伴や大演習參加の爲め目下歸朝いたし、少休暇を得て一寸當地へもまゐり、其後また小兒の仕度やら冬着の準備其他にかかり、今年ほど忙はしき時はなしと感じ居候。

昨日は例により同級會を開き申候處、集る者十三人にて、誠に久し振りにて面白く樂しく一日を過し申候。承り候へば〇〇樣にも〇〇樣にも御男子御出產遊され候由、かゝるおめでたき事は御座なく共に喜び合ひ居候。昨日も〇〇樣には赤ちやんを御同伴なされ實に御可愛らしく御成人遊ばし居られ候て、先生にも御見せ申度き程に御座候ひき。私も來年早々よりは母さならればなり申さず實に資格なき御母さんにてわれなから面はづかしふ覺ゐ候。あまり〳〵つまらぬ御話しのみに長びき申候、一寸御機嫌御うかゞひ申上げんと存じ　、取まとめたることもなき繰言御ゆるし下され度候、何卒〳〵時節柄御身御大切にあそばされ度、かしこ。

十月二十六日夜

先生みまへに　　　　佐久間次子

(三)明治四十二年三月佐久間大尉から某女史へ

謹啓

未だ拜眉の榮を得ず候へ共、荊妻次子の常に御氣風を慕ひ、日夜語り居り候ひしを以て、且つは次子の拜受せし御寫眞に依り何となく舊知を辱くせる感有之、過日來死者に代り愚書呈し度心止み難く候ひしも、富山並に郷里若狹の方家事整理並に葬儀の爲め歸省致し居、一昨日歸任仕延引今日と相成申候次第に御座候。豫め御斷り申上候、小生至て惡筆亂文何卒その眞意のある所をのみ御推讀被下度候。富山叔父よりは次子は病死の様御知らせ致したる様なれど、其後定めし噂に御聽取被下候事かとも存候。實は産後の經過不良の爲めにて、善く參れば、芽出度事限り無き紀元節の朝八時三十分女子出産、至て輕く候ひしも、後産下らず依て手術を受け胎盤を出せしが、案外經過良好、一同愁眉を開きし様子なりしが、其後急に惡變し、即日午後四時眠るが如く長逝致したる由に候。小生は當時呉に罷在日頃安産を待ちつゝあるの際、此凶報に接し俊寛僧都の招還狀に對するそれならで、或は電文の誤りならずやと繰り返し〳〵讀めども「今朝女生れ次子死す」より解せられず、夢なれかしと祈れども覺むる様子もなく、泣く〳〵悄然として歸途を急ぎし次第に御座候。

小生の心狀、次子が生前知己の高恩を辱せし貴刀自ならで誰れにか語らんや。回想すれば前年一月〇〇にて結婚の式を擧げしより一ケ年有餘とは雖どもその間公務の爲め長く異域に隔在し、同棲の樂みを得しもの僅かに二ケ月有餘、唯々繁き通信により意志の交換を樂みたる位にて候ひき。今春出産、育ひ立ち後は、早々當地に參り新家庭を造り度きが唯一の望みにて、出産前日迄いと健かに之れが轉居の諸準備の外餘念なかりし由、その日誌も明かに前夜迄記載し有之、當地へ參りてよりの日々の會計法、献

立表迄も造り有之、之れが遺稿を見ては悲涙せきあへず斷腸の思ひ有之候。彼の女の父には常に一日も早く出產して御地に參りたしとの言を繰り返し居候。無常の世の中、憂き事悲しき事數々あるは當前の事とは存候ながら、人生の悲嘆事又之れに過ぐるもの有之候はんや。

　彼の女は常に先生の御品格を慕ひ居、朝夕語りて止まず彼の小生と結婚擧式の爲富山出發前即四十年十二月二十七日頃とかや賜はりたる彼女の性行につきての御訓戒の芳墨は父兄の戒書と共に大切に保存致し、常に彼女の身邊を離さゞるものにて有之候ひき。今は大切に收めて小生の手元に有之、今回賜はりたる悲しき御弔詞と共にし、亡き母の形見として遺兒に傳へ度存居候。

　あゝ悲しさ何に譬へんものも無し、何か前世の緣約にてもありしものか、不思議にも意氣思想投一し、實に今世無二の配者を得たる悅び、希くは誠心力行、將來高潔なる家庭を造らんことを相約し居りしが、今は幽明處を異にし相語ることを得ず、此の希望も水泡に歸し實に秋風落莫の感無き能はず候噫々。

　されども逝者追ふとも甲斐

なし、徒らに嘆くは却て死者を迷はしむる所以と存候間、反省一番豁然として心氣を轉じ、將來事に當り度、又彼の盡くせし誠意を以て遺子を愛育し、聊かその靈を慰めやり度、之れ今世に殘る唯一の樂み唯一の希望に御座候。生兒は輝子と命名致し、育ひ立つ迄當分富山叔父宅に預け置き申候。之れ亦將來如何なることにて御厄介を蒙ることになるやも計られず、何卒死者の生れ代りと御思召御指導願上候。愛者去て既に約三週を經候へ共、今尚夢心地して實事とも思はぬこと有之、今迄度々爲せしつらき離別に引き比べ時として旅路に出でしかの如く思ひ居れど、何時迄待つとも歸るべき便りもなく、實に可憐のものは死したるものにて有之候。

言ふて甲斐なき愚痴の語は之れにて止め、茲に謹んで死者に代り生前高嶽の御恩を謝し奉り候。希くは死者の靈、生ける小生をして之れに出てしめたるものと御思召、幸に御承了被候はゞ、死者の悅び又之れに過ぐるもの無之と存候。

尚ほ將來死者に代り御交誼の程祈上候。先は亂筆を以て御禮迄、時下寒威料峭の砌り御自愛專一と祈上候敬具。

三月二日　　呉、第一潜水艇隊にて

佐久間勉

○○○○子樣

座右

二白、徒らに感情に走り御禮言ひ漏し候、過日は早速御叮嚀なる御香奠を辱ふし難有鳴謝仕候不盡

（四）

大に凌ぎよく相成候如何居らせられ候哉御伺申上候次に愚娘事も大に發育致し居候安心被下度、目下敦賀に里子に預け有之候。先は時下御起居御伺迄嘸行啓の御準備に御多忙の御事と存上候。

呉、第一潜水艇隊

佐久間大尉

九月十日

○○○○子樣

（五）

春寒料峭の砌り益々御清健奉欣賀候。日頃は學年末に際し、定めし御職務一層御多忙の御事と恐察仕候。扨て歳月匆々流るゝが如く、去月十一日には亡妻の一周年祭と娘の一周誕生日とを迎へ、喜憂の感交々至り舊懷の情に絶えざるもの有之、當日乳親の方より紀念の撮影送り越候。生きて在らんには先生に一枚を呈し御笑覧を仰ぐ事ならんと故人の心中涙察せられ候に付、茲に燒増を命じ、本日來着、延引ながら一葉を呈し愚衷のある所御諒察の上御笑覧被下候はゞ、死者も亦地下に滿足至す可くと存候。遺女は依然として敦賀に預け有之、頗る健全に發育し居り、最早獨り立ちにて家内を歩き廻り、單語をも話し諸藝をも演ずる由通知有之候。乳母は慈愛ある人にて本人の爲めには幸福と存じ一同安心致し居候へども、彼の天眞爛熳の齡期を膝下に於て撫育する能はざるを思へば、無念の嘆涙禁ずる能はず候。

回顧すれば去年の正月「太郎の惡德」なる書を讀み將來の育兒上大に得る所ありと申居りしものゝ、今や故人となり遺兒は陋街の軒下に他人の乳を探りつゝあり、人生の運命の測り知る可からざる如斯御座候。曩日時事新報に別紙「母の勢力」なる一記事あり一讀感慨を深ふし候に付、切拔の上高覽に供し候。憐れ母なき彼の女は誰にか此の賜を受けんや。家に母無きは火の消えたよりも寂し、往年慈母に別れ今回更に其嘆を深うせり。思ふにこれ等の感念は悲境にある人にあらざれば想像し及ばざる所と存候、小生は今尚ほ現狀を維持し、故人の冥福を祈りつゝ幸福の回來を期待致し居候。急がば後に悔あらんと永久彼の女の爲めに幸福なる家庭を得させんことを思ひ、現時の卑陋なる境遇を犧牲とし、要するにまだ一二年間は乳を得れば澤山なりと諦め居候。愚影贈呈の一片の通知申上度と思ひながら、書くに從ひ舊感續發し、知らず識らず無用の事に口走り申候。先は斯く迄、尚ほ時下不順の砌、尊體御自愛專一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に祈上候、敬具。

三月十三日　　　　呉、第一潜水艇隊

佐久間勉

○○刀自座右

（六）最期三週前の手紙

拜啓日増しに春暖相催し候處、益々御清健にて渡らせられ欣喜此事に候。扨て去十五日以來當鎮守府の小演習の爲め出港致居、漸く昨日歸港、十六日出の御芳墨を拜誦致候。かゝる次第にて、延引の段惡しからず御推量願上候。

扨て御芳志の趣繰り返し拜誦、今日に始めぬ事ながら、斯く迄に御心懸被下候御同情の厚き只管感涙の外無之候。獨り遺兒のみならず、故人も地下に御愛憐の深き御高德に感謝致し居る事と存候。

實に小生も向後の處置に付經驗ある先輩にも計り種々苦慮煩思の後、如何に教育ある慈悲深き後繼者を得るとするも、遺女成長の後は自然他人よりも語られ、今日上流社會にすらあり勝ちなる、繼母子の忌はしき關係感情を起す樣の事ありては、誠に面白からぬとの杞憂心より、寧ろ遺女は後人に對しては全く母子の關係を絕たしめて、終世母無し子とし、既に學齡に達する頃よりは然るべき良家庭の宅に預け教育し貰ひたらんには、却て我が家庭も平和に本人も却て幸福ならんかと存じ、實は不時の時に際し本人の養育教育費も準備しある次第にて候。往年富山○○樣よりも種々後繼者の撰擇に付深き同情の御意見を拜承致候ひしも、右の決心を述べ、今暫く現狀維持致すべくと申上置候ひしことなるが、昨今遺女の現狀を聽きては覺わず可憐の情に動かされ、果して世に我が理想とせる仁慈深き、所謂耶蘇教信者が言ふ所の神の如き美はしき心の後繼者が得らるゝものならば、斯る偏則なる家庭を造り厄介者視なさなくとも圓滿なる一家の中に成長せしめ、親子の愛情義務を遺憾なく發揮し、且つは餘命少き老父をも安心せしめ得んかとも存じ居候。されど假令斯くす

るとするも若き婦人に小供のおしめの世話等させること出來得べきものに非らざれば、尙今後一ヶ年間程卽滿二才位になり便通の世話もいらず、是非の辨理の附く迄は現時の所に預け置く決心にて、又將來の敎育上此嬰兒期は惡影響を蒙る事少なかるべければ、然か程憂慮する程にあらざる可しと存候。

之れを要するに小生の決心は

一、適良の後繼者にして遺女の愛育、圓滿なる一家の形成を以て自ら任ぜらるゝ人あらば結婚するも可なり。

二、朋友或は世間に對し遺兒あるを以て初婚者の恥とする如き近見の人は望まじ。

三、遺女丈けは尙ほ一ヶ年間現狀を維持し、全く乳母の手を離るゝ頃迄は後繼者を煩はさゝる積りなり。

就ては兼て承り居たる○氏令孃には、その人格と御家庭につきては詳細拜承致し居候に付。父兄親族の意見は如何か未だ漏らしたること無之候へば知る可からず候へども、小生一個人としては滿足の至りに候。されど

一、御當人は遺女ある所へ後妻として來る應諾の決心覺悟ありや。

二、右本人はよし應諾すると假定するも、親御の方には快く承諾せらるゝ趣なるや。

此二問題が先決せざれば折角の有り難き御配慮も空談無爲に終る次第と存候。又小生は先方が初婚者の故を以て望まぬ所を無理に頭を下げてでも貰はんとするが如きは獨立の男子として恥る所に候へば、斯くは致し度無之候。さりとて決して自ら傲然として他動を待つ譯には無之候へども、兎角鼻高き後繼者は却て家庭の不和の種と相成らんかと存候。今回御敎示の再婚者たる夫は、初度の考を放棄して處世の方針を新にするの必要ある一件は誠に御尤もにて小生も密かに其覺悟致居候。彼我家庭の狀況當人の人物を雙方知悉せる中ならば、此の種の結婚談割合に容易く參り候へども、如何に信任すべき人の言に

依るも、全く見ず知らずの中は話の纏り六ケ敷ものにて、初婚者の後妻行きを忌むは一般人情の常に制せらるゝ所多きものかと存候。小生は去る不幸後は「ホーム」の愉快と云ふものは得られぬものと諦め居候も、之れは公務上非常に沮害する所のもの有之、知らず識らず其の人の性質を酷薄偏屈化せしむるもの有之候を自覺致候。聖人とも言はるゝ人には此の憂無からんも、凡人には免かれざる所かと深く自ら愼み居候。

先は忌憚無く所感を述べ申候が、不文の爲め盡くさゞる所或は御感情を害ふ樣な點も有之候はんも、之れは小生の本意に無之候間何卒可然御諒察願上候

尙ほ時下御自愛專一に願上候敬具

呉

三月二十五日　　佐久間勉

○○○○子樣

座右

獨逸見聞録

在獨　吉野作造

バーデン國に於ける共同教育

小學校でも、男生と女生とは成る丈別々の教室で課業を受くるが、中學以上になると一般に別々の學校で敎へられる（大學は無論男女混合である）。獨りハーデン國では、中學に於ける男女共同敎育を試みて居る。一體ハーデンは、昔から獨乙で一番新しい事をやる國である。常に先驅けをして居る。男女共同敎育も、先づバーデンが率先して試みた。ハイデルベルグの中學校長の話によると、數年實行の結果は頗る良い成績を擧げたと云ふ。彼は曰つた。『當初予は、男女共同の結果、斯ふ云ふ利益もあらうが、又斯う云ふ弊害もあらうと、得失の兩方面を豫想して居たが、實行數年の成績に依ると、豫期した良結

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

果は男女兩學生の上に遺憾なく表はれ、弊害は塵ほども起れるを見ない』と。

中學校では、女の方が常に首席を占めて居る。大學でも同樣だが女の方が一般に男よりも勉强する。ハイデルベルグの中學では、本來男兒の爲めの中學へ假りに女兒を收容したのだから、成績が惡いと退學する。成績は一、二、三、四、五の五等に分ち、四等が丁度日本の六十點に當る。男生徒に在つては五が二つあれば落第して元級に留るのだが、女生徒の方は五がたゞ一科目あつても退學となる。故に一生懸命に勉强する。其爲めでもあらうが首席は常に女生であるのみならず、女生は擧つて男生を凌駕して居るさうである。

女學生の一番得意な科目は外國語で、其次は博物なさうだ。最も下手なのは矢張り數學で、次が妙に歷史と地理とが拙いさうである。之は多年女子教育に經驗のある教師より聞いた。獨乙では男女とも外國語としては主として佛語をやる。英語は殆んどやらない。佛語なら子供でも知つてゐるが、英語さなると大學生でも餘り知らない。

獨逸人の儉約

獨逸人の儉約なことは兼々聞いて居つたが、實地當つて見て更に一驚を喫した。僕は元來相應に儉約な質である。夫れで東京での生活には百圓內外かゝつて居つた。併し物價の高い獨乙でも、僕位の人數の家族で、百圓の生活費を費す者は、僕等位の身分の者には殆んどないと云ふのを聞いて、如何に彼等が儉約であるを感じた。

彼等は決して儉約を厭はない。日本では儉約を以て一種の恥づべき行爲であるかの如く考へ、人の前に之を蔽ふ風がある。コーヒ屋に往つて見ると、餘つた砂糖をポツクツトに入れて持つて歸る者があると云ふ話は兼々聞いて居つた。之は立派な紳士奧樣も平氣でする。或る宿屋で朝飯を食つた時、僕と相對して立派な紳士も一所に食事して居たが、其紳士

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は僕の面前で、憶する氣色もなく餘つたパンに餘つたバタをつけ、紙に包んで懷に入れた。多分晝食にでもするのであらうか。立派な內の令孃や奧樣が、客との對談の前で、靴下の穴繕ひをするのは當り前の事である。日本では儉約な吾輩でも、靴下一足を二ケ月と持ち切れなかつたが、僕の宿の主婦は、朝から晩まで靴下をはき通しで、而も一年も二年も持つと云ふ。最も彼等は五足も六足も持つて居り、二日目毎に洗濯して、穴をついで穿く。滅多に新しい靴下を買はない。一寸した手拭のやうな者でも、少し穴があくと丁寧に奇麗に繕ふから何時までも持つ

　ハイデルベルク大學の歷史の敎授オンケン先生が講義の原稿を、廣告の引札かと思はる粗末な紙の裏に書いて講壇に立たれたのを見た時は、流石の僕もビックリした。後で之を獨乙の學生に話したらソンナ事何が不思議かと云ふ顏をした居た。

　靴下を繕つて穿くと云ふやうな事は、遠く兩親の手許を離れた學生でもする。自分でする者もあるがそう云ふ綻びの繕を安い直段で商賣にして居る者もある。靴下の穴繕ひ、シャツズボン下の綻び縫ひ、洋服の綻び縫ひの如き、皆輕便にやつて呉れる。日本にも御仕立物所といふが諸方にあれど、綻び繕ひなどはせぬ。中には絹物で無ければ喜ばぬといふもある。綻びた平常着の繕などは、恥しくて仕事屋に出せぬと云ふが、一般の家庭の感情である。獨乙ではそんな懸念は少しもない。僕も遠慮なく汚い物をドン／＼賴んで居る。

　獨逸の學生は毎夜必ずズボンを丁寧に疊んで、床の下に布いて寢る。日本の女學生の中にも、毎日袴をたゝむ事をせぬ者は少くなからう。加之獨乙の學生は、內へ歸ると直ぐ疎末な上衣に着換ね、カラーまで取り換へる者がある。冬になりて襟卷のやうな細い布を首に卷くから、防寒の爲めかと思つたら、外套を衣る爲めにカラーの汚れるのを防ぐのださうだ。之等は體裁を飾るのが主たる目的であらうけれども、儉約といふ意味もないではない。獨乙の學生

の身なりをつくらふのは可笑しい程で、十七八の男子でも、懐鏡を持つて居る。汽車に乗つてイザ降りる時と云ふと、彼等は丁寧に帽子を被り、鏡を出して曲つてるか曲つてゐないかを直す。滿座の中で若い男子が鏡を出して襟飾の曲直を見るのは、我々日本人には甚だ生意氣に見へる。書生でも汚れたカラーをつけてゐるのはない。書生がふざけて首にすがつたりなどする時、オイカラーが汚れるといへば直ぐ止める。僕の友人のスタール君は、三ダースばかり持つて居つて、始終取りかへる。彼は決してハイカラではないのだ。帽子でも靴でも、大變大事にする。兵隊でも日本のやうに帽子をつぶして被つたり何かするものは見ない。此冬ライン河沿岸の地方を旅行した時、丁度クリスマスで兵隊の乗合が多かつたが、彼等は腰掛ける時、外套の裾をまくつて尻の下に敷かないやうにする。帽子でも劍でも取扱が誠に丁寧だ。從つて我々なら一年に破れるのが、二年も三年も持つといふわけになる。

獨乙の學生で下宿してゐるものは、晝だけは飯屋で食事する。獨乙の下宿は大概朝食付部屋代幾何といふので、晝と夜との食事は別だ。我々も晝と夜とは飯屋で食ふが、大抵安くても一食に一馬克五十片(七十五錢に當る)は入る。然るに彼等は安いとこを探しあるいて、同じ物を一食七十片(三十五錢)内外で食ふ。而かも晝だけで、夜は宿でコーヒを拵へて貰ひ、パンとバタとハムのやうな冷肉を自分で買つて來て食ふ。決して宿に賴んで買つて貰ふことをせぬ。斯くて二十片三十片位に濟ましてゐる。彼等の普通の生活で、部屋と食料とに六十馬克(三十圓)を拂ふものは贅澤の方である。我々はドンなに節約しても其倍はかゝる。獨乙學生一ヶ月の費用は、概ね百馬克を出ぬ。尤も組合を組織して居る學生(學生の組合といふ者は、中々沿革ある者で、特別の研究を要する。追て新人で之を論じて見やうと思ふ、貴族の子弟などが多い) 中には、一ヶ月に六百馬や千馬克も使ふ馬鹿者もあるさうだ。けれども普

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

通の學生としては、百馬克内外で十分と見へる。前記のスタール君は、金持の一人息子だが、去年一ヶ年に衣物から月謝から一切合計して千八百馬克使つたといつた。丁度我々留學生の半分だ。我々は外國人なるが故に、萬事高く取らるゝのみならず、向ふの學生と同一の生活をするわけに行かないから、政府から貰ふ金で十分であるとは思はないが、彼地學生の儉約を見習ふと、大に懐の都合が工合よく行くだらうと信ずる。

日本人は貧乏な割合に浪費する傾がある。多年日本人に接した或る獨乙人は、日本人は譯もなく多額の贈物をするとて其いはれなきを笑つて居た。多くの人は日本人が餘計な所に氣を張るのを見て、非常な金持だと買ひ被つて居る。故に下宿屋などでは一番に歓迎される。獨乙に着たばかりの時には、宿屋の拂をするのに五錢三錢のつりを取つたりするのが極りが惡く、又少し綻びた靴下は女中にでもやつてしまはねば始末がつかぬ樣に思つたが、獨乙人は却て之を不思議に思ふ。彼等と一緒に素敵な儉約な眞似をして見ても、チツトも都合のわるい事はない。のみならず場合に依つては締りのある人と思はれて都合のよい事もある。

金錢の價値は我々だつて能く知つて居る。併し我々の間では、餘り金の事をいふのは賤しむべき事になつて居るが、獨乙の人は此點に於て頗る露骨だ。僕或る時、財産家の家族と山に散歩し、歸りに麓の茶屋でコーヒを飲んだ事がある。獨乙の茶屋では大廣間で音樂をやつて、人を寄せるといふことである多少の入場料を取る。此時丁度、此茶屋で音樂があつて、入場料は二十片(十錢)である。二十片を拂へばストーヴで温まつてる室で、面白くコーヒが呑めるのである。丁度夕方で、アト四十分で音樂が濟むといふ際であつたが、同行の連中は、當り前の金を拂つて半分しか音樂の聞かれぬのはツマラぬと云つて、中へ這入らない。戸の外に寒風に慄え乍ら、コーヒを呑んで歸つたことがあつた。何十萬の財産家

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、タッタ十錢の勘定で中へ這入らなかつたのには流石の僕も閉口した。之れ丈は餘りだと思つたが、茶屋の主人までも、同行の財産家に眞面目に贊成して、『今から這入りになるのは損ですとも』と合槌を打つたのを聞へた時には、成る程獨乙の人は金の貴い事を知つてる哩と感服した。

又此冬ある田舍で半月ばかり暮した時、土地の小學校の敎師から、御話がして見たいから麥酒を吞みに來んかと誘はれた。獨乙の人は能く麥酒を吞む。女でも子供でも日本で、茶を吞むやうに吞む。而して大抵ビーヤホールで吞む。獨逸では都鄙共にビーヤホールが頗る多い。都會では左して目立たないが田舍に入ると一番目につく建物は寺で、其次に立派な建物は乾度ビール屋だ。僕の滯在した田舍村は、人口僅に六百七十であるが、立派なビール屋が三軒もある。この麥酒やに來て呉れとの誘ひであつた。往つて色々話をした。小學校の敎師とはいひながら日本のことやなど中々詳しいには驚いた。東京は北緯何度だの、日本には西洋でいふ意味の大地主といふものはないと、アベコベに向から敎はつた。やがて歸る時刻になつて先生は代價を拂つたが、其時まで僕は御馳走になるものと思つて居た。樣子が少し變だから、試みに僕の分は幾らかと給待人に尋ねたら十二片との答であつた。之に依つて始めて向ふの先生が己の分は拂はない事が分つた。我々の感情では、斯う云ふ場合には向ふが御馳走するのが當然だが獨乙ではさうでないものと見へる。成程日本の樣に向から御馳走になり、此方からもまた向ふを招待するといふやうに、二重に時と金とを費すよりは、此獨逸流は實際的だと思つた。斯く物事が輕く運べは、社交も發達するのである。之も必竟は無益の浪費をしないといふ事になる。

斯う云ふ事實を、一本調子に日本人的の感情のみを以て判斷すると、獨乙人は餘りに金に汚いやうに見ゆる。其れに下宿屋などは、多くは上品な人間でないので、外國人と見て頗る貪りもする。故に日本

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人在留者は、動もすれば獨乙人を以て金を欲しがり金を惜むこと支那人に均しと斷定する。併し之は必しも正當の見解でない。僕が此冬北獨逸のシイウエルムに遊んだ際、ハーネ君に連れられて馬車で諸方へ見物に往つたり、往つた先きでは料理屋で食事したりなどした。其際僕は案内して貰つて見て歩くのだからと思つて、向ふの分までも拂はうとしたら、ハーネ君は、君は客に招かれて僕の所へ來られたのだから出すに及ばぬ、客に呼ばれたときは財布は廣げるもので無いとて、一文も拂はせぬ。萬事ハーネ君が拂つた。其癖切手を貰つたり、手紙の封筒を貰つたりしたら、其方は僅かの金だけれど、一々請求して取られた。之れで僕は考へた。獨乙人は金の價値を知つて居る。之を惜しみ之を欲しがることは支那人と同様だけれども、無暗に金に執着するのではない。之を惜しむから理由なく出すことはせぬ之を欲しがるから取るべき場合には遠慮なく取る。去ればとて出すべき相當の筋合ある時は、決して之を惜むものでない。要するに獨乙人は、金の出し入れに就ては、頗る露骨にして、而かも極めて合理的である。

獨乙人の儉約に就ては一から十まで感服したが、只一つ感服の出來ぬのは、其結果人工的避姙の弊風が漸く盛であることである。佛國では、昔二兒制Zweikindersystem）が行はれたが、今は無兒制（一人も子供を產まぬこと）が行はれ、二兒制は漸く獨乙に盛ならんとして居るといふ事は、本でも讀んだ。斯んな事は、餘り立ち入りて聞くことの出來ぬ問題であるから、詳しいことは申されぬけれども、現今大抵の家庭は、三人位の小供が普通で五人とあるのは極めて稀である事實と、僕か自身十三人兄弟あるの、小供が五人あるのと云ふと、子供の方は丸で信用せず、兄弟の方はそれぢや御兩親は破產だらうと誰しも云ふ事實とに依りて、僕は獨乙でも金の爲めに人工的避姙の行はれて居ることを疑はぬ。獨乙では、固より、子供の教育には、日本よりも金がかゝ

る。子供が多勢あつてはやり切れない筈だ。且つ彼等は「死んだ後の金より生きてゐる中の金」といふ諺の示す通り、樂しく人生を過したいと考へて居る。子供の爲めにだつて苦勞するのは馬鹿げてると思つて居る。故に子供の數は、自分の財產に相當した所で止めて置かうといふのである。去れば田舍の百姓か、貴族金持の外は三人以上子供のある家は殆んど見ない。獨乙では人口の絶對數は年々增加してゐる。一九〇八年度は二百萬以上の增加で、五十年前の平均增加數百三十萬、三十年年の百七十萬、二十年前の百八十萬に比して、著しき增加であるけれども之を全人口の割合に比較して見ると千人中の出生數二十前までは三十八乃至三十九であつたのが、十年前には三十七に減じ、五年前には三十四に、一九〇八年には遂に三十三まで下つたと云ふ話である。此勢で進めば人口問題で苦む者は、將來佛國のみではなくなるだらうと思ふ。

只茲に一言附け加へて置きたいのは、獨乙人の避姙は主として金の方面から來るので、佛國の一部の人々のやうに單に面白く浮世を渡りたいといふ我儘から來るのでない事は明かだ。又產れた子供に對しては中々愛情がこまやかで、親子相慕の情味は寧ろ日本以上だと思ふ。日本の在來の家庭は、母は春風の如く父は秋霜の如しとあつて、一部の家庭の如きは事實上決して子供に取つて無上の樂園ではない家庭を樂園にするには一寸御父さんを敬遠して置く必要があることは稀でないと思ふ。獨乙の家庭は、其儘で實に無上の樂園であつて、ハーネ君の家庭では、二十を越した大の若者が、母上や父上の頸にすがつたり、頰ぺたをなめたりするのを見て、思はず嬉し淚がこぼれた。

獨逸に於ける日本の品物

獨逸で人口の一萬もある位の市街なら、乾度日本の品物を店頭に飾つてゐる店がある。大都市になると、中々立派な骨董品もある。多くは塗物であるが、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其疎惡なのにはがつかりする。其他陶器なども間々見るが、概して安物が多い。若し夫れ日本品の僞物若くは日本の意匠を取つた室内裝飾品に至つては、甚だ多い。兎に角予は各地を旅行して、到る處に日本製品を見るのを愉快に感じた。シイウエルムで、或る雜貨屋で、日本紀州岩橋製と銘打つた漆器を見た。疎末な品だがよく賣れるさうである。雜貨屋の婆さんが漆器は日本の秘密で、獨乙が習ひに行つても教へぬさうだと云ふから、予は否々漆の木が西洋に無いのと、又漆の取扱は慣れぬ者には險呑なのとの爲めに、外國人の習得は不可能なのだ又漆は濕めつた天氣には能く乾くが、晴れた日には乾きが惡いと云ふ妙な性質があるので、獨乙のやうな乾燥した國では旨く行かないのだと説明してやつた。又獨乙人は、日本の絹は非常に珍重するが價が高いので普通の者は見た事もないと云つてゐる。キモノといふ詞は今や獨乙語となつて、婦人の夜會の外套の袖の大きいのは、キモノ式の外套といふて居る。キモノとゲイシヤとは、尤も廣く西洋の人の口の端に上る日本であらう。

ヤンキーガール

在マヂソン　海老名一雄

ヤンキーガールは世界第一の偉らい女である。試みに大學の圖書館に行つて見給へ、電燈光りまばゆきリーディングルームは爛熳たる花の盛りを見る樣である。赤、白、オレンヂとりどりに着飾つた女學生が一心不亂に大冊の頁を繰つてる樣はとても日本では想像も及ばない所である。又試みに氷滑りに行つて見給へ、花の樣な美人が頰に紅を徵して、其長いスカートをゆらり〳〵とゆるがせ乍ら悠々滑走して居る其光景はとても形容も及ばないのである。あゝ美しい、氣高い、活潑な、怜悧な、仇つぽい、あのヤンキーガールを見る度毎に吾人は憮然として筆

を焼きたくなるのである。

實にヤンキーガールは美しい、純白な膚肌、高い鼻、コルセットをはめスラリと立つた其の形のよさ一回轉毎に無限の愛嬌が籠つて居る其眼、人を外らさぬ其會話の巧みさ、實にヤンキーガールの美は天下一品である。

實にヤンキーガールは怜悧である。大學の講堂に男子と机を交へて毫も見劣りする所が無い。否な多くの場合に於て男子よりも成績が優れて居る。討論もやれば演説もやる、哲學、科學、史學さては政治經濟の學に至るまで彼等は熱心に研究して居る。從つてピー エッチ、ディーの學位を得、又得やうとして勉強して居る者も澤山ある。勿論我ウイスコンシン大學の教授中には幾多の婦人があるんだ。

實にヤンキーガールは活潑である。盛に運動をやる。又運動が好きだ。如何なる冒險でも敢行する氣象がある。引込み思案などは藥にしたくもない。そうして大膽である。思ひ切つた事を云ひ、又思ひ切つた事をする。實にヤンキーガールは高尚である。氣品が高い。これ男女交際が理想的に行はれる所以である。卽ち男子以上の見識と人格とを女子が持つて居るからである。日本で男女交際の出來ないのは、只女子の氣象が卑しいからである。男子に尊敬を拂はれるだけの品格がないからである。決して女子其者が弱者であると云ふ譯てはない。男子の性格が下劣であると云ふ譯でもない、男女交際の秘義は只女子の向上に俟つ許りである。實にヤンキーガールは理想的の女である。否な女と云はんよりは寧ろ人である。換言すればヤンキーガールはヤンキーボーイより偉いのである。

吾人は實にヤンキーガールの嘆美者である。而かも一朝太平洋の波を越ゑて日本の土を踏む其瞬間必ずや豹變して素の國粹保存論者に立返るに相違ない事を白狀せざるを得ない。之れは決して吾人がヤンキーガールを妻とする事能はず、日本の女子を娶らねばならぬと云ふ運命を有して居るからそう云ふの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ではない。其理由は只一である、卽ち斯くの如き偉大なるヤンキーガールも若しこれを「女子の本分」と云ふ點から觀察して見ると實に根本的に誤まつた發達をなして居るからである。卽ち換言すればヤンキーガール發達の歷史に根本的に「女子の本分」を蔑ろにして居るからである。

然らば「女子の本分」とは何であるか。これに對して古い古い舊思想が依然として眞理の光を放つて居る樣に思はれる。卽ち外でもない。「良妻賢母」其ものである。一部の女權擴張論者は怒るかも知れない。ベベルの樣な社會主義者は憤然として反對するであらう。併し果して女子が家庭を離れて其存在の意義を全うし得るものであらうか。女子が果して專門的職業に從事する能力と天職とを有して居るのであらうか。無論天才的婦女子は稀にある。併し天才は常に除外例である。明治五十年に近うして未だ第二の一葉女史出でざるに非ずや。

吾人の良妻賢母主義は決して女子高等敎育に反對するものでない女子高等敎育とは何ぞ。これ新なる良妻賢母主義ではないか。男子獨り向上して女子を追ひ殘す、從つて女子は男子が終生の同情者たる事が出來ぬ。こゝに於てか女子高等敎育の必要が始めてある。子女生長して其母よりも進步して來る。こゝに於てか女子高等敎育の必要がある。其他女權擴張運動社會救濟運動其手段は異なり。其名は異なるも要するに女子の悲境を脫却せしめて幸福なる家庭の人たらしめんとするのではないか。現代の良妻賢母主義は高等下婢主義ではない。女權擴張よし、高等敎育よし、唯其根本目的が良妻賢母であるのである。

然るにアメリカの女子敎育が齎した結果は實に此根本的原理に背く事になつた。但しヤンキーガールが敎育によつて其美質を失つたと云ふのでない。ヤンキーガールはいや益々美しい、氣高い、怜悧になる許りだ。日本の舊思想家がよく云ふ「どうも女學生上りは生意氣で家が持てません」と云ふ樣な理由

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

からして云ふのではない。思ふにヤンキーガールは其母よりも更に美しく、人に愛せられ更に巧に家庭を整理する智能を持つて居るのであらう。理由は下の如くである。即教育が女子そのものを結婚に向かなくせしめたのではない。教育が結婚そのものを女子の注意圏内から離してしまつたのである。即ち女子が平生注意し、憧憬し、熱望すべき筈の結婚がつまらんもので、馬鹿々々しいもので。左程有がたくないものになつてしまつたのだ。天下かくの如き咄々怪事があらうか。

然らば此原因は何處にあるか。一言にして盡す、女子が男子より偉くなつたのである。これは事實である。單に智識の點から云へば未だ少しは男子の方が高いかも知れない。若しこれを品位の點から云ふならばヤンキーガールは確かにヤンキーボーイより優れて居る。吾人はつくづくヤンキーガールの氣品の高尙なるを感ずると同時にヤンキーボーイの品性が案外に下卑である事を常に感ずるものである。

而して男女共同教育、或は男女自由交際と云ふものが益々女子をして男子の教育品性の己れよりも劣等である事を知らしめる好機を與へる。此點に於て即ち女子をして結婚を欲せざらしむる原因となる點に於て男女交際は却て呪ふべきものとなつてしまつた。單に氣品のみならず、又智識の點に於てもアメリカに於ては女子の方が男子を追ひ越す傾向を有して居る。即ち一般アメリカの家庭では男子は其糊口に汲々として漸く朝夕の新聞を讀む位が關の山であるに反し、女子は悠々として哲學、文學、科學すべての方面の讀書に耽る餘裕がある。已に人の妻たり母たるもので大學の研究科に勉強して居る婦人は決して珍らしくない。かゝる有様からして結婚當時同等の程度であつた男女も、年を經るに從つて漸く女子の方が追ひ抜いてしまふ、これ亦女子をして其夫に對する敬意を減少せしむる結果となる。從つて其家庭に不安を生じて來る樣になるのである。

かくの如く女子の向上と男子の向上とが相伴ふ事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

能はず、遂に女子が優勝の地位を占めてしまつたのである。而してこれ天下只獨りアメリカに於てのみ見得べき現象である。未曾有の變態である。人間文化の歷史に特筆大書すべき大事件である。若し世界に家庭なく男子と云ふものゝ關係がなかつたならばヤンキーガール程貴く、偉大なる女子はない。併し男女家を成すは人類根本の方針である。此故からしてアメリカの教育は大なる惡結果に陷りつゝあるのである。思ふにヤンキーガール位或る意味に於て悲慘な運命に捕はれたるものはあるまい。彼等とて家庭に對する憧憬がない筈はあるまい。理想に協つた男子を得ん事は彼等が日夜の希望であるに相違ない。或る若いヤンキーガールが其心情を吐露した言を其愛らしき唇より聞いた時には實に吾人は同情に堪へなかつた。卽ち彼等に取つて理想の男子を見出す事は魔塔の寶庫を探るよりも困難なのである。彼竹取物語に描かれたる赫耶姬は卽ちヤンキーガールである其一顰を得んと欲して狂奔した月卿雲客は卽ちヤンキーボーイである而かも新大陸幾千萬の赫耶姬は、八月十五日夜團々たる玉兎を望んで月宮の故郷に歸る事は到底出來ぬ。彼等は一度戀を獲んと欲して失望し、遂には己が下僕にも等しき男子に其全身を托するか、或は永久獨身老孃に終るより道はない。而して其衷心の悲哀はよしそが人の妻たると否とを問はず殆ど同樣であつた。一生涯不滿の念は增大するとも減少する事はないのである。

女子の優勝は實にアメリカ國民の大問題である。此點に於て智德共に憫れむべき日本の女子は却て幸福である。而して高等教育が益々日本の女子に與へらるゝに當つて願はくば我愛する大和民族をしてヤンキーガールの覆轍を踏ましむる勿れ。

砂の上より

せい子

○

火をおさめ山は眠れり紫の細き寐いきす春の夕ぐれ

○

素足して砂にまろべり三月の川原の風は身にそゞろなり

○

山見つゝ春の歌かく大利根の川原の砂はうすしめりして

○

臺置きて父の胸まで脊のびぬと兒はよろこべり春の風吹く

○

更衣月やゝめぐみたる糸柳の一條毎にこもる生命よ

○

黒き石なげてひそかに慰みし其人思ひその川に立つ

○

更衣月や雪の赤城に夕日して我行く旅は上野に入る

○

ひそかなる涙を覺ゆ行く水の行くにまかすと云ひは放てど

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

四角な口　　不喚

天氣になると鍬を擔いで野良へ出掛ける。雨が降ると引込んで蟲喰ひ本を擴げる。氣が向くと發句などを作つてニヤリ〱して居る。妙な男である。内で作つた草餅を一ト重持つて行つて遣つたら大きな四角な口を明けて草餅を喰つたが、別に何んにも云はなかつた。

○俳諧の鬼一口や草の餅　　碧童

山の中は一時間の時間を二時間位に思つて暮す。三千年も活きさうだ。花は勝手に咲いて勝手に散る鳥は氣紛れに來て氣紛れに鳴く。何を見たつて刺戟を感ずるなんてものはありはしない。などと不平なやうな得意なやうな事を山人が云つて居る

○山中の遲日不斷の花に倦む　　橡面坊

配膳が始まる。誰か知らんが立つて開會の辭のやうな事を喋つて居る。羽織袴でキチンと座つて紋切形の長口上を聞かせられるのは下さらない。脇見をして庭の泉水を眺めてボンヤリして居ると、出しぬけに喝采の音がして喫驚した。與物皆春。庭の鶴までが春らしい伸びをして居る。

○席末に池を眺や春の水　　碧童

さうブリ〱怒つたつて仕やうがないと云ふたつて腹が立つて辛抱が出來ないんだから仕やうがない。忠告なんか五月蠅いから獨で海岸へ出て勝手に不平を云つて居ると、腹の蟲がいゝ加減に治まる。陽炎がキラ〱して目眩しい。怒るなんてつまらないな。

○陽炎や餘憤を歩む磯傳ひ　　泰山

都會の奴等はヤレ運動じやのヤレ滋養じやのと餘計な眞似をして居る。この腕ッ節を見イ。病氣なんぞと云ふものは田舍にやうろついて居らんのじやからナと云つて、田舍の叔父さんは大きな喉を見せて草餅を喰つた。

○草の餅無病に藥なかりけり　　松濤樓

家庭

子女教育に對する母の務（其十四）

海老名みや

（再び手藝の教育に就て）

前號に申ました通り、現代の小供は昔時の小供より、慥かに其手藝の點に於ては優つて居ります。先づ其例として、鞠やお手玉の遊戯をごらんなさい。我々の小供の時代よりどの位進歩して居るでございましやう。昔は譯の分らぬ鞠歌を歌つて鞠をついたり、くる／＼廻つてつく位なことで、極單純なつき方でありましたが、此節では、二つも三つもの鞠を同時についたり、樣々の異つた藝當を演ずる處は、驚くの外はありませぬ。分けても著しい進歩をしたのは、お手玉でありましやう。樣々の切をあつめて、ねじ／＼にこしらへたり、或は丸く又は四角に、先づ其形のこしらへ樣からして、小さい頭をどの位働かせて居るかが分ります。其技に於きましては、とても昔のと較べものになりませぬ。おジャミお二タの簡單な仕方では滿足せず、色々のやり方を發明してそれからそれと研究して、工夫して行く處は實に感心です。それは、見ても面白い樣で、三つも四つものお手玉で、あやをとるにも、或はトン切をしたり、壁にはふりけつたり、鞠とお手玉と混じてとつたり二人してとつたり、丸で太神樂を見てゐる樣です。これが十才前後の女兒の術としては、其進歩を驚かずには居られませぬ。かう近頃になつてこれらの遊戯の上に、大發展を見ますのは、いろ／＼の理由があることゝ思ひますが、先づ第一は交通が自

由になつて、九州の人が東北に東北の人が四國に、東京の人が中國にといふ樣に、諸國の人がいれ雜りまして、東京の如きはあらゆる國々の人が集合しまして、名々其國振の遊戯を、甲から乙、乙から丙に傳へます中、其中の優れたものが勢力を得て、流行る樣になりますと、それに又改良を加へて〱と云ふ有樣でかう進歩したのであらうと思ひます。第二の理由は、手藝の練習が出來て居る爲だと思ひます幼稚園から初めて折物や豆細工や、張物又は遊戯の中に、指の運動、手足の運動と、凡ての處がよく發育して居りますから、何をさせても上手に出來る筈でございます。編物なども實に進歩したではありませぬか。熟練の人はお話をしながら少しも眼をつかはないで、ずん〱、編んで居ります。田舍へ行て見ますと、縮毛を向ふ鉢卷にしばり上げて赤ん坊をおぶつた十才前後の子守が、手にはりと毛糸をもつて編で居ります。到る處毛糸やレース糸のない店はないといふ有樣でありますが、私共の十五六才の時分は編物でもするといふ人は餘程ハイカラで進歩した方で、其頃は銀座通にたつた二軒の毛糸屋があつた許りであつたと記臆して居ます。其一軒は今も盛んに繁昌して居りますかの伊勢屋であります。素より毛糸があると申ましてほんの少しばかりで、染分けや中細や極細などは、横濱へ注文しなければありませんでした。今は絹スコッチだ、アイスウールだ、チヤケッツだと、どれ程の種類があるか知れませぬ。たゞに毛糸ばかりではありませぬ。糸屋の店を一寸のぞいてごらん遊ばせ。種々樣々の美しい糸の種類がガラス戸の中に飾られてあります。マア普通のぬひ糸でも、今から十四五年前迄は、きぬ糸といへば先づ一通りでありましたのが、今は中細あり、極細あり、羽二重ぞべ糸あな糸と、大中小、好きなのがあります。其色に至りましては、幾十種ありますが、殆どあらゆる色を染め上げて、買手の望みに應ずるといふ風に、何でも品に應じて適當なものを使用することが出來ます。刺繡の色取になりましてはどん

な美妙な點でも顯はせるといふ樣に、いろ〱樣々の色の種類や糸の種類があることゝ思ひます。如此き糸屋の發展は、とりも直さず現代婦人の手藝の發展を示したものだと思ひます。それは美術學校や女子職學校等專門學校の爲であつて、一般は決してさう進んでは居ない其證據には、昔は十六七才にもなれば一通裁縫が出來たものだが、現代の娘たちは自分の不斷着すら縫へないではないか。もうお嫁さんになつて、子供の二人も出來た人でも、子供のものから自分のもの迄人賴みにするではないかとおつしやる方もあらうと思ひますが、誠に御尤で、十人が十人さうであるとは思ひませぬが、大部分さう云ふ缺點を見ることは殘念ながら、事實であるやうです。して見ると手藝の發展は只一部に止るもので、多數は進んでは居ないのであるかと申ますと、決してさうてはないと思ひます。見やう見眞似といふことは、知らず〱の中に大なる敎育となるものでたとへば、學者の家の召使は、眼に一丁字もな[illegible]し

て、學の大意の何物かをとらへるといふ樣なわけで一家の中で、お姉さんが裁縫や刺繡や造花が出來ますと妹さんたちも知らず〳〵の間に、何かしら覺えるといふことは必ずあることで、其一家には美術技藝の念が、何かに充ちて居ることと思ひます。又前に申た通りお手玉の手振といひ、鞠のつき振りといひ、何をさせても昔の人より上手に出來るものが、何んで裁縫一つが出來ないといふことがありましやう。これは出來ないでなく、しないのだと思ひます其しない理由は樣々あることだと思ひますが、第一學問の方が忙しくつて、する暇が少い。第二に裁縫などはしなくてもよい、上等のものは仕立屋にさせ其他のものはおはりの女中か、又は他に出すといふ樣な考えです。昔、女で裁縫の出來ないものは、何が出來ても女のお仲間入が出來ないと考へて居た頃とは、丸で違つて居まして、これも見やう見眞似で中以上、上流の家庭になりますと、世の交際が繁くなるにつれて、つひ家の仕事は人手に托すといふ風になりますのを見て居まして、面倒臭い、裁縫などして居てはつまらない。どうせ人にさせるもの、骨折つてする程のものではないと云ふ氣が自然と内に起つて參りますので、學校でのお裁縫時間も身にしみてしない。家では尚更お針をもつのはいやだといふ習慣になつて仕舞のだらうと思ひます。これは其母たる人に責任があることで、能く〳〵注意しなければならないと思ひます。それで裁縫は出來ないのでなくしないのである。すれば必ず他の手藝や遊戲の樣に、能く出來るといふ事を、親たるものも、又自身も承知しまして、學校での授業時間も又家庭に於ても、何にかにつけて心がけて、針を持たせる樣に致しますならば、驚く樣の進歩を見るは疑ない事だと信じます。

女兒の遊戲や手藝が、かく進歩したに反して、男兒の遊戲は昔に比して退歩したのではありますまいか。私は近頃ふと此邊に心付きまして、皆樣の御實驗やお考えを承り度と思ひます。私が今申ますのは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ベースボールやボートやテニスなどをする、少年男兒の遊戯でなく、十才前後の幼年兒童の遊戯をいふのですが、女兒のお手玉や羽根つきや鞠に對する遊戯は何でありましやうか。雄壯活潑な遊で、願はくば技能の發達を助けるもの、例へば凧あげ獨樂廻しといふ樣な昔時からあり來りのものや、新來のものいろ／＼集めて研究して見度と思ひます。實際宅などの小供等でも、尋常二年と五年の女兒はお手玉や鞠やで、如何にも面白さうに遊びますが、九才と七才の男兒は殆どこれといふ面白さうな遊びがありませぬ。あつてもすることが出來ませぬ。これらは家庭に於て能く考えねばならないことだと思ひます次號はこれらのことを研究して見度と思ひますが、皆樣の御承知の遊戯を可成承り度と思ひます。

卒業と結婚

赤星仙太

▲一足飛に良妻賢母の講釋

毎年三月から四月にかけて、青年女子（女學生と云ふ言葉は語弊があるから使はぬ）の卒業期である。當人又は其保護者にとりて、結婚は蓋し當面の問題であらう。一體、教育は人としての教育なるべく、敢て夫妻父母としての教育で無いとの見地に立てば卒業前に結婚問題を説くのは當を得ない。卒業後、其保護者たる人が結婚に關する心懸けを子女に示せば宜いのであるが、實際幾何の父兄が其子女の良人たるべき人を撰擇しつゝあるであらうか、誠に疑はしいのである。多くは媒介人口に聞く、割合に愼重ならざる態度に出づる。故に、教育家たる者は、卒業前後に於て教師の立場から充分なる注意と助言とを其卒業生の結婚問題に拂ふ必要がある。今日の樣に、一向家庭教育と云ふ事を考へずに、一にも二に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も學校御任せ主義なる父兄母姉にとつては、之が却て願つたり叶つたりであらう。

斷つて置くが、余輩の云ふ意味は、何も學校教師に媒介人を爲よと勸めるのでは無い、自分が敎へた生徒の婿を搜して遣れと强ゆるのでは無い（之が出來れば結構だが）。唯這般の問題に對して本人が一廉の思慮分別を持つて居る事が大切であるから、能く本人の性質傾向抔も察して出來得る丈け周到な助言を與へ置くが敎育家の責務だと云ふのである。

高女系統の敎育では頻りに良妻賢母を說くが、僅か十四五の少女に如何程の必要があらう却て餘り安賣を爲た結果、將來自らが妻母と成つた時其完成に努力せぬ樣な事に落ち行きは爲まいか。實に安賣は險呑である。惰性的に陷らぬ心懸を要する。其れから良妻と云ひ、賢母と云ひ、何れも結婚後の事である。先決問題たる結婚を看過して置いて、一足飛びに良妻賢母の講釋を爲ても甲斐が無い。分に安んせず、氣位計り高く成つて虛榮抔に憧れる樣な女性は、筋道を疎かにした「良妻賢母」主義の敎育が產み出した者では無からうか。兎に角、結婚其者を說かぬ間に、育兒とか料理とか簿記とか、無暗矢鱈に詰込む事には贊成が出來ぬ。料理でも、裁縫でも、學校で習ふ事は如何しても他所行に成る。決して身分相應と云ふ譯に行かぬ。だから、無理算段を爲ても學校で拵えた西洋料理を遣つて見度くなる、裁縫敎室で縫つた樣な絹物許りいぢくり度くなつて洗ひ洒しは嫌に思はれても來やう。玆に虛榮心の卵も孵化せられるのである。斯う考へて見ると良妻賢母主義も妙なものであらう。今日は四民平等だから成長後如何な家に嫁ぐか判らぬが、其れ迄は自分の家相應が大切である。裁縫とか料理とか並一通りの事は本人の母姉が責任を以て其家相應に敎へ導くのが一番宜いではあるまいか。

▲敎育家の特權と光榮

偖て、余輩が卒業前後に於て結婚を說けと云ふのは、精神的の意味なので何も結納の取交し抔巨細な

形式的な事を説けと云ふのでは無い。一夫一婦が人倫の本義たる所以を明らかにし、結婚の神聖にして愼重なる熟慮を要する事を敎ふるが第一である。而して良人擇みが宿世の因緣で無い以上、本人の立場は肝腎であるから、個人的には深切な助言も爲ねばならぬ。或る意味に於て父兄母姉よりも一層能く本人を理解して居る筈の敎師が、其人の將來に就て連體の責任を感して盡す事、之が卽ち敎育家の特權又光榮なのである。

抑も、男女に係らず人は當然結婚すべき者である。成程一家の事情乃至は一身の體質上結婚せぬ方が宜い事もあらう、或は特別の天才を有して獨身で過ず方が天意に適ふ事もあらう。然し、獨身は如何見ても例外である、例外が多からう筈が無い。生れ且死ぬる人は十中八九結婚すべきである、故に結婚は考ふべき問題であつて決して無頓着たるべき事で無い。破格な獨身の婦人を貴む風を廢めて、精神的に良妻賢母たる人を重んせねばならぬ。其れには、先づ結婚の道行からして正して懸らねばなるまい。

▲結婚の好時機

卒業前後に結婚を説けと云ふのは、決して卒業の年頃が結婚の好時期だと云ふ譯なのでは無い。之以前に云ふのは早過ぎるし、後れては其機會を失するからである。余輩は、十七八位な高女校卒業頃は結婚するに尙早であると思ふ。其れには、尠くとも二つの理由がある。其一つは、出來る丈け處女期を永くしたいからなので、其れには結婚年齡を最少し後らす必要が生ずる。以前なら結婚は樂みな夢と淡い事でもあらうが、生活難の多い今日では結婚は寧ろ犧牲である。名は同じ結婚でも、昔の行樂は今の眞劍仕合と成つた。其れ故、學校生活から直ちに此犧牲に移るのは餘りに突飛ではあるまいか。兎に角、十七八歲の結婚ははみちめだと思ふ。出來る事なら、高女校卒業後三四年間はのんびりと育たせたい。其れから猶一つの理由は、夫婦年齡の釣合を保つ爲めに婦人の結婚年齡を後らせたいのである。成業の遲

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

くなつたのや生活難抔の爲めに男子の結婚期も從つて遲れ勝ちで、如何しても三十前後が普通になつて來た。其れに十七八の婦人では餘りに年齢が隔たり過ぎる、其處に順當な夫婦道が行はれ易からうか。余輩には、多少の疑問がある。內助の點から觀ても、實績が擧りにくいと思ふ。要するに、高女校卒業後結婚期を幾年か後らすが本人の幸福だと思ふ。

▲中間期を如何にすべき

既に然らば、卒業と結婚との中間期を如何に過すべきであらうか。普通に、學校で養ひ上げられた品性抔も卒業と共に家庭の空氣に濁され勝ちなのであるから、中間期が永ければ永い程其の善用利用が大切である。其善用法の第一は、矢張り家事見習ひであらう。學校時代には學科に追はれ勝ちであつたのだから卒業後は實際に家事を見習ふ必要がある。又世間には、一廉の勉强に骨を折つて居る己が最愛の子女の在學中、無理矢理に活花茶の湯は愚か御琴の稽古までも强ゐるが、斯樣な事も中間期迄伸して置いた方が宜い。其方が、本人の爲めにもなる。其れを、御膳立を早く爲過ぎるから結婚を急ぐ樣にもならう。次に、結婚後の心懸けとして實用と天賦とに鑑み相當の勉强を爲るのも良策であらう。一寸斷つて置くが、家政上特別の必要が無い限り、此中間期を或種の職業的月給取りに浮身を瘦さぬが肝要である。蓋し、此中間期は、啻に生理上から計りでは無く、實に精神上の危機である。故に、前掲の事柄にも優つて精神的の修養を然さねばならぬ。

▲良人の職業に同情し得る必要

結婚に先方の人物如何乃至健康狀態を省慮すべきは、普通に人の云ふ所だから今更述べ立てぬが、猶一つ、婦人は其嫁ぐ良人の職業に同情を持つ必要がある。其職業に同情無くしては、眞正の愛情は起り難いし、精神的の意味に於て決して內助の功を奏し得るもので無い。名譽とか、地位とか、富みとか其樣な事よりも眞實同情し得る職業に關はれる人に嫁いで喜憂を分つのが正當の道である。商家の妻に相

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

應しい婦人を月給取りの妻たらしむるは、人物經濟天才發揮の上から觀ても損である。軍人の妻たるべき婦人と牧師の妻たるべき婦人とは、先天的に相反した型なのではあるまいか。職業に對する同情は、本人の心的傾向に基く。保護監督の任にある父兄母姉や、永らく敎へ導いた學校敎師(敎授者で無い、敎育者)は、如何か此邊に十二分の注意を拂はれたい。

亡き夫の想出

故小林富次郎夫人
小林あや子

▼深きなさけ

亡くなりました主人は大層店の者を大事にいたしました。食事なども必ず店の者と一所に、同じものをいたゞきました。入浴は、必ず店の者から先に入れました。夜十二時が一時になりましても、店の者がは入つてしまひませぬ中は、決して家内の者を入れませんでした。一度私が、貴郎だけは、お先きへおはいりになつてはと申しましたら、「いや、店の者のお陰で、かう商務がはこんでゆくのだから」と申して、決して聞き入れませんでした。そして店の者を決して呼び捨てにいたしたことは御座いませんでした。

▼聖書の講義

なんでも皆の者に神を信じ神の道をふみ行はせなくてはならぬと申しまして、家族の者店の者一同に毎朝、聖書の講義をして聞かせました。常に少しも小言といふを申しませんで、その講義の時それとなく注意せられました。初め、私も娘も神の道を存じませんで、お耻しいことですが、一生懸命講義をして居られるのに、眠くて〳〵仕方が御座いませんでした。遂にそのよしを訴へますと、「眠くても、聞いて居れば、何か少しは頭にはいるのだから」と申して決して咎めませんでした。敎會へも今日は雨天ですからよします、と申しますと「それじや、よせ」。今日は風が吹きますからやめます。「それもよし」、と少しも強いませんでした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▼まごころ

晩年にはよく禁酒會や、教會へまゐつて、お話いたしたやうで御座いましたが、私は正直な人だから、間違はなからうが、もし萬一僞などがありはせぬか、萬々一、一言でも、そんなことがあつたなら神様を信じるのはいやだからと考へまして、二三度随いてまゐりました。でも全く、正直に眞面目に有の儘をお話しいたしますので、神様を信じますとゑらいものだと存じましたそして神様を信じなければならぬものと固く信ずる様になりました。又孫たちを大層可愛がりまして、病氣にでもかゝりますと、逗子や、鎌倉、方々へ自分で伴連れてまゐつて、養生いたさせました。自分も弱い

體でしたが自分ひとりの爲めにわざ〳〵轉地にも湯治にも參つた事は御座いませんでした。あまり、自分の事には重きをおきませんで、どうかして、慈善の爲め、困る人の爲めにと、考へて居りましたやうで御座ります。

▼松前ぶし

最後に病みつきましたのは、昨年の十一月で、同じ十二月の十三日に、亡くなりました。亡くなります一週間ほど前の或る夜、他所から歸つてまゐりまして、入浴の後、お得意の松前ぶしをうたつて、私に聞かせました。上手に歌ひますその調子が、面白いのか、心細いのか、悲しいのか、淋しいのか、何ともわからず、胸を刺すやうで御座いました。只今考へますと、こんなのが、前兆とでも申すので御座いましたのでせうか。

▼敢果なきさだめ

平常病身で御座いましたから、覺悟はいたして居りましたけれど、昨日までも今日までも、口をきいた人が、全くかはりはてるのを見ましては、ほんに人間は果敢ないもの、脆いものとふかく感じましたそして、永久に變り給はぬ神樣を、しみ〴〵と考へずに居られませんでした。

▼かはらぬ神

此の世では、全く人をたのまぬわけにはまゐりませぬけれど、あまりたのみすぎますと、萬一の時の苦痛が一通りでは御座いませぬ。いつまでも〳〵かはらせ給はぬ神樣におすがり申すほど、安心な大丈夫な事は御座いませぬ。此頃はもう聖書を讀みましたり、神樣のお話をうかゞひますのを、最上の樂しみといたし、第一の慰めといたして居るので御座います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭衛生談

(育兒に就ての注意)

醫學博士弘田長氏夫人　弘田ます

若いお母様がをり〳〵赤さんのお乳について、御相談に御出でになりますから、私はこんな事を申し上げるので御座いますよ。お乳は　どんなに澤山おありになつても、母親の病氣、または留守の時の用心に、生後三十日位たちました時から、必ず一日に一度は、適度に薄くした牛乳をあげて、(五十日後になりますと、もう母親の乳に慣れて牛乳は飲みません)これに慣れさせてお置きなさいまし。さうしませぬと、もしやむを得ぬ事情の爲めに　母親の乳を飲ませられませぬ時、俄に牛乳にいたしますと、子供が厭がつて飲みませぬばかりでなく、或は腸胃を害したり、種々の病氣になることが御座います。つい怠つて二三日も飲ませぬと、もう忘れて飲みませぬ。それですからわすれぬ爲めに、一日に一度は、必ず母親の乳を搾つても、牛乳をお飲ませなさいまし。

そして夜はなるたけお乳を飲ませぬ習慣をおつけなさいまし。これは最初は、困難で御座いますが、暫くの中に習慣となつてまゐります。夜分目をさまして、泣きます時にゴムの乳くびを、(空氣のはいりませぬのを)くはへさせまして、そつと背中をたゝいて居りますと自然に眠ります。四晩か五晩、辛抱して、面倒を見て居りますと、おひ〳〵習慣になりまして、遂には夜中目を醒さぬようになります。母親の乳は生後八九ヶ月の頃から、子供の爲めになりませぬから、その頃からお乳をはなした方がよろしう御座います。お乳をはなさうといたします頃に、最初鷄肉と馬鈴薯のスープのよく漉しましたのを、盃に一杯位づゝ與へて見ますのです。そして子供の身體に、なんともないやうで御座いましたら、その次には二杯位づゝにいたしますのです。そして　おひ〳〵にそのスープの中へほんの少し御飯を入れまし

て、二時間も三時間も熟煮いたしましたのを與へますのです。こんな風にいたしまして、おひ〳〵に母乳をはなすので御座います。申すまでもなく、牛乳はいつまでも用ゐましてよろしいので御座います。一年半位になりますと、お粥にあまり、油こくないお刺身とか、煮肴などを與へ、二年位になりますと普通の御飯にいたしまして差支御座いませぬ。

と、こんな事を、私の經驗いたしました通り、御話しいたしますので御座います。(尤も子供の强弱によりまして、加減をいたさなければなりませぬからそれ〳〵專門のお醫者樣には相談なさることの、大切なことは、申すまでもありませぬけれど)

それからお菓子で御座いますが、初めは極輕いかるやきのやうな種類のものがよろしう御座ひます。ビスケットはあまり消化がよくありませぬ。よく、ビスケット位はよろしう御座いませうかと、主人に尋ねらるゝお方が御座いますさうですが、そのぐらゐが、大層よくないのだと申して居ります。

幼稚園や學校へ參るやうになりますと、お辨當は必ず母親が氣をつけて入れてやるがよろしいと存じます。女中任せに致しておきますと、分量なども、よくわかりませんし、夏むきなど隨分わるくなつたものを、氣がつきませんで、そのまゝ入れましたり不都合なことが御座います。宅では幼稚園に參ります間は、あまり寒暑の嚴しい日は、子供の健康を氣遣ひまして、やすませることに致して居ります。

それから主人の注意によりまして、寢衣はどんなお寒い時でも、フランネルの下に、浴衣一枚かさねますのみで、それ以上は決して着せませぬ。あまり澤山に着せますと、却つて夜具から飛び出して、風を引くやうなことが御座います。

◉國民と非國民●●●●●●
民友社發行　定價金貳拾錢
所謂大逆事件の善後策の一として、此書生れたりと覺ゆ。極力かの社會主義の國民的生活並に其教化の上に柄鑿相容れざる危險思想なる所以を問答躰なかり平易丁寧に說破して國民道德の動搖を阻却せんとするに努めたり。時節柄恰好の讀物たるを失はず。

婦人の力

文學博士 桑木嚴翼

付てある必要から法律の書物を調べて居たとき熟々社會の制度は男子の爲に出來て居ると思つたことがある。尤もこれは日本ばかりではない。大英百科全書の第一版には Woman と云ふ字の定義に僅に female of man, See Homo と記して居るといふ。英國ですら少し昔に溯ると斯うであつたと云へば他は推し得らるゝではないか。然し若しいつまでもこのまゝであれば婦人の眞の力はないことになる。良妻賢母が惡いと云ふのではない。惡妻愚母では無論困るのであるが、然し他にも認め得べき力があらう。

これを云ふ前に二つの點を注意して置きたい。それは、第一に女と雖も人間である、物體ではないから人間としての力があるといふことと、第二には活きたる人間である以上、活きたる動く力、他の手段や道具ではない其物自身に價値ある力があると云ふ事である。心の力である。心より湧き出る力である。此點から婦人の力を考て見たい、第一に才智の力―婦人の才智の力は男子のそれと異なつた性質を帶びて社會に一種の力のあるものである。(而してこれは矢張り男子に影響する力である、かう、或意味に於ては男子の手段のやうにも見えるが、然し單に道具としての手段ではない。)古より婦人の才智を示す例は多い、 カントの名を爲さない頃或家の家庭教師をつとめて居たが、此家の夫人がカントから受け、又反對に之に與へた影響はカントが其弟子に敎へたよりも多かつたらふと云ふことである。日本でも王朝期の才女、譬へば清少納言などを見ると彼女の才智を以て周圍を刺し當時の文化を助けたことを思ふのである。紫式部、和泉式部小式部内侍などにも此點を覗ふ事が出來る。而して余は男子を刺戟するものとして特に才女を擧げたいと思ふ。第二に愛の力―「愛は女子の生命なり」と云ふ、これはすべての人の認めるところである。母の愛、妻の愛、友の愛等種々の形をもつて現はれて居るけれども、要之、男子はこの力によつて刺戟せらるのである。(基督敎世界)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時事の折々

△南北朝正閏問題

●はしがき　所謂大逆事件が落着するさ南北朝正閏問題が一代議士の質問さなつて議會に表はれてより、國論一時に沸騰し、朝野の識者志士が此問題の解決に盡力して途に文部當局者をして反省せしめ、折角公表するばかりになつてゐた國定敎科書に對して改訂を加へんするこさになつたこさは、既に讀者諸姉の御承知に係るこさであるから、今更事々しく此問題の表裏について解説する必要がなささうではあるが然し、此問題は獨り歴史敎育上の問題たるのみならず、延いては我國民道徳の上にも重大なる關係のあるこさはいはずさも明白なこさであるから、記者は六蒲十菊の譏を免れぬこさを知りつゝ、本欄の凡てを此問題のために捧げて後日の回想に資しやうさ思ふのである。

●事の發端　時は誰れ春尚ほ淺き一月二十一日のこさであつた。早稲田大學講師室に相會した牧野謙次郎、菊池三九郎、桂湖村、吉田東伍の諸講師が、煖爐を圍んでの四方山の話の末、偶々同月十九日の讀賣新聞に掲載された國定新刊小學歴史敎科書中の南北兩朝の正閏に關して憤慨した一文が話題の中心さなつて、これから、一問一答、將に佳境に入らんさする時、授業のベルが鳴り渡つたので講師連は止むなく各教室に赴いた。が此一場の閑談こそ國論喚起の狼煙さなつたのであるこゝに斷つておくが、讀賣新聞掲載の一文は東京本郷區富士前小學校長峰間信志氏の手に成つたさいふ世評であつたが、此頃になつて該論文は實際同氏の筆でないさいふこさを該新聞社が態々辨明してある。

●問題の骨子　さいへば、此四月からの小學用さして新刊された日本歴史で、彼の南北朝の條を記すに當り、從來南朝を正位さし北朝を閏位さするやうに說かれてあつたものに對し、南北兩朝對等說若しくは北朝正統を或は明示し或は暗示した文句を挿入したこさが端なく此問題の骨子さなつたのである、該書教師用のものに「容易に其間に正閏輕重を論ずべきにあらず」さ斷言してゐる。つまり此等の差別を立つるのは臣子の分際さして僭上限りなきこさで、これは愼まねばならぬさいふのです。これは編纂委員の一人にして當面の責任者たる文學博士喜田貞吉氏が其著「國史之教育」にいはれてゐる。然るに今若し南朝の間には正閏の差なし輕重の別あるべからずさして、其對立を目して何れも正天子さして仰ぐこさゝなるならば、天に二日なく地に二皇なしさいふ國體の基本を破り、國民の信念を動かすこさゝなる。これは到底正閏の別あるこさを認めるさ同時に南朝を以て正統さ見ればならぬ。さいふのが反文部省論者の新說であつて、これより、甲論乙駁、此方面の國史通が鎬を削つて議論を上下するこさになつたのである。

今其双互の論旨を略說しやうなら、かうである。

（第一）　正閏の語は支那のやうな易姓革命さいうて、宋を滅して明が立つたかさ思ふさ淸

がうつて之に代るさいふな國には適合するが然し我國の如き萬世一系の皇室を奉戴する國柄には極めて不適當であるさ對等無正閏論者の一人が云ふさ、イヤ決して然うではない。支那にこそ不適當なれ、我國には極めて適合してゐる。何ぜならば、支那は君主專制の衣裝をつけた共和國さもいふべき國で、德なく力なき者が亡んで德あり力ある者が王者さなるのであるから、正統の天子さか閏位の天子さかいふのは皆誤りで、唯歷史編纂上前朝さの聯絡を保つために史家が假りに正閏の區別を立てたまでゝある。萬古一系の皇室を奉戴する我國では歷史上一時變態を生じた場合には此區別が甚だ能く當嵌る。同時に二天皇あるを容さぬのが我國體であるから、若し形の上で二天皇ある時は、一方を正さし他方を閏させねばならぬ。これか即ち大義名分に則るからのことであるさいふのである。

（第二）　對等論者は南北朝分立の如きは一時の變態であるから其間に正閏輕重を立てゝはならぬさいふが、南朝正統論者は一時の變態であるからこそ此區別を立つる必要があるさいふ。

（第三）　對等論者は北朝に神器が傳つてゐない所から比較的神器の有無を重視しないやうであるが神器は皇位繼承に缺くべからざるものであることは天孫降臨の際に於ける天照大神の詔勅で明々白々である。後醍醐天皇が隱岐行幸に當り光嚴天皇に一種又は二種の神器を授けられたがこれは素さより北條氏の壓迫の結果で天皇御自身の御本意でなかつたことは、隱岐より歸洛さなつた時、重祚の式を以てせられずして、卻つて巡獨狩幸の式を用ゐられたことで合點せらるゝ、其後吉野の行在所に在はすことゝなつた時は豫め用意せられた僞作の神器を授けられた。これに由つて見ても神器の皇位に重大なる關係のあることは申すまでもないが、對等論者は、もし果して然うださすれば神器さへあるさ天皇になれる以上は、簒奪者も皆天皇になれるさいうて神器無用説を暗に主張する。然し、これは神器の授受さいふことを忘れた論法で、「神器の所在」は即ち「皇位の所在」であることを知るべしさ南朝正統論者はいふのである。

（第四）　對等論者は所謂南風競はずで實力からいふても、北朝が南朝に比して優越なる地位さ勢力さを實際有つてゐたからださいふさ南朝正統論者はこれは「名」さ「力」さを區別せぬ偏見であるさいふ。

（第五）　對等論者は現在の皇室が北朝の系統にて在はすゆゑ北朝を閏位さするのは恐れ多いさいふ事である。さいふさ南朝正統論者はソレには相違ないが、然し南北朝御和睦の際には南朝出の後龜山天皇さ北朝出の後小松天皇さが互に父子の禮をさつて神器を授受せられた以上は最早國體の常態に復したので南北朝の稱呼は絶滅したのである。今更現在の皇室を以て北朝の系統に出づるさいふのは卻つて恐れ多いことである。況やこれ血統さ皇統さを混同した妄斷である。しかも兩朝さも血統より見れば均しく神武天皇の御子孫である問題さなるのは皇統の上である。皇統の繼承者さして既に南北兩朝の區別なきに至れば強いて現在の皇室を以て北朝出であるさ力說する必要は毛頭ないのであるさいふ。

（第六）　若し南朝正統論者のいふが如しさならば、いはゆる善人衰へて惡人榮ゆるさいふことになつて小學兒童の觀念教育上非常な惡影響があるさいふことを一方でいふさ他方では成敗利鈍を眼中におかぬところに大義名分の精神がある。然らば小學兒童の教育上此精神を鼓吹するに際し何もこんなことを彼此心配するにも當らぬことであるさ一喝し去る。

◉議會に於ける正閏問題

早稻田大學講師松平康國氏は牧野講師さ協議の結果其

從弟に當る大阪府選出代議士藤澤元道氏を訪うて種々熟談の末、愈二月六日議會に左の質問書を提出することゝなつた。

第一　文部省は神器を以て皇統に關係なしとするや。

第二　文部省は南北兩朝の御爭を以て皇統の御爭となすや。

第三　文部省は南朝の士正成以下を以て忠臣に非らずとなすや。

第四　文部省は尊氏を以て忠臣となすや。

第五　文部省の編纂に係る尋常小學校用日本歷史は順逆正邪を誤らしめ皇室の尊嚴を傷け奉り教育の根柢を破壞するの虞なきや。

更に質問演說には尙二ヶ條を加へて當局者の辯明を得やうとしたとのことである。即ち

第一　文部省は小學歷史教授の主旨を如何に定めんとするか。

第二　文部省は南朝に神器なき事實を認めしか。

かやうにして遂に議會の一大問題たるに至つたが、桂首相は或は藤澤南岳翁（元道氏の嚴父にして關西地方に有名なる碩儒）の舊門下生たる農商務局長下岡忠治氏を介して藤澤代議士に對して該質問書を撤回せしめやうとしたが、斷然拒絕せられ遂に藤澤、松平、牧野三氏は文相幷に文部省編纂委員たる三上、喜田兩博士等と三度會見して互に所見を戰はした。其後のことは爰にいはぬことにしやう。唯世間の噂さによれば、藤澤氏は政府の毒酒に醉はされて、二月十六日の議會に於て自ら質問書撤回の理由と代議士辭職の旨とを議場に演說し、其後は狂態百出、さしもの大問題もあはや有邪無邪の裡に葬り去られんとしたが、納らぬは同志者の胸の中、則ち國民黨の彈劾的議案となつて愈々政府當局者の責任を問ふことになつた。が、該案は少數のため否決となつた。

●政府者の處置　元來藤澤氏が質問書撤回の一理由として數へられたものを見ると桂首相が能く質問の主意を了解され、こんなことならば、該教科書は公表せずに直樣廢棄すべしと誓言したとあるが、これは桂首相の與り知らぬことだといふことが藤澤氏辭職と前後して御用通信が書いたので、愈々藤澤氏は首相に賣られたといふことになつて當局者の狡猾手段を憎むと同時に藤澤氏の意思薄弱なることを罵る聲が聞ゆるやうになつた。然し、既に輿論の趨向は大抵國民黨の活動によつて知るゝが如くなつて見ると、其儘政府が晏如として居る譯には行かない。則ち一方に於ては文部大臣は議會閉會後引責辭職すべしといふ噂であつたが、今日になるも未だ噂だけらしく思はるゝ、唯だ此間當面の責任者たる喜田博士は休職となつて廣島高師教授重田定一氏が其後を襲ふことゝなり、他方に於ては教科書に對して改删を加ふることゝした。で、文部省は先づ松村普通學務局長の名を以て「昨年中師範學校長及び同修身擔任教師を召集し講習會開催の際に於ける文部編修文學博士喜田貞吉氏の講演は同氏一個人の私見に外ならざれば、事誼の本末取捨を誤らざる樣注意せられたし」との通牒を發し、次に三月八日の調査委員會の決議に基き、新定の御歷代表を全國小學校教員に配布して教授の標準となし教科書中南北兩朝天皇及年號の並記等該表の旨趣に抵觸する部分は勿論、兩朝對等的叙述の嫌ある廉は教科書修正完了するに至る迄總て此主義に依り教授すべき旨を各地方廳に通牒したが、此新定の御歷代表は南朝を正統とし北朝五帝を削除したもので、此表に據れば、今上天皇は人皇第百二十一代に當らせ給ふことゝなつたのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

随感

音聲と言語

海老名みや

つひ近頃のこと、ある停留所で、連とおぼしき二人の年若な婦人が、電車にのり込ました。其一人は氷ぎはたつての美人で、其花の唇からは、鶯の初音恥かしい聲がもるゝであらうと、見とれてをりますと、どうでしやう。烏の様な、があ／＼といふ聲でしかも不謹愼な言葉使ひで話し初めました。私は興さめて見て居ますと、其連の婦人は、どことて取たてゝいふ程の處はありませんが、澄んだやさしい、引しまつた聲で、つゝましやかに、應じて居ります處其つれの美人に幾層倍優つて見えましたらう。眞に心地よく感じました。まあ人はいかに眉目よく生れましても、音聲や言葉使が賤しう下卑てをりましては、其美の半は消え去つて仕舞ふかと思はれます。それに反してよしや其容貌は醜うございましても、晴れやかな、玉をころがす様な音調で話されますのをきゝますと、又其人の醜くさはどこへやら消えて仕舞ます。人の美は顔形五分に、其動作五分だと或人が申されましたが、私はそれに音聲と言語を加へて三分三分に致度と思ひます。しかも其音聲と言葉使は最もよく其人の心の狀態や性質をあらはすものでありまして、心の快活な晴やかな人は、大抵鈴をはつた様な聲を出しますし、沈着な、しんみりとしたたちの人は、春雨のしと／＼と降る様なしめやかな音調を出すものであります。たま／＼はら黒い恐ろしい心の人が、さも／＼親切さうに、やさしくはなしを致しますのは、所謂猫撫聲で人の最もいみきらう處であります。又人が年をとりますと、だん／＼愼みが薄らいて來まして、つひ不作法な調子を

出すものでありまして、自分ながらも折々はつと心付て、赤面することがあります。人は日夕其修養を積み、自らそれが其人の口を通して出る言語は、美妙な音樂の樣に、人に快感を與へる樣にあり度ものだと思ひます。小供時分から能く〳〵注意させまして、きゝぐるしい聲や、すげない荒々しい言葉使ひをしない樣に、敎へる事は大切だと思ひます。

多忙なる人の心がけ

安井　哲

私は毎日電車の中で面白い經驗を致しますが、時々車掌が東京の地理に熟れぬ地方の人々や、又は吾々の樣な案内を能く知つて居る江戸子に對してまでも、冷淡不親切な取扱をするのを觀る事がありますが、何ともいへぬ不快な感じが起る者であります。又此間は某有名な東京の西洋料理店で、私共の大懇親會を催しましたが、給仕人が客に對して親切を欠いて居るには實に驚きました。併私は是等の人々を強て辨護して、其冷淡なる態度をかく説明致します即車掌と云ひ給仕人といひ、忙しい生活をなして居りますから、精神も身體も疲れて居るに相違ありません。故に少しの事でも氣に入らぬと直ちに怒るといふ心狀にあるのであると。かく解釋すれば自分の多忙な時に思ひ比べて、却つて彼等のために氣の毒であると同情致されますが、併之れでは客が不快で堪へられません。そこで短氣な客でも居合はせると直に喧嘩が起るのは是亦常に目擊する所であります

此種の人々には限りません。私共も充分注意致しませんと、多忙の余り不知不識他人に對して不親切は行動をなす事がないとも限りません。一體心にもないお世辭を人々の前にふりまくのと、他人に便宜を與へやうと思つて之れを親切に取扱ふのとは、同一の心狀ではありません。又都會なれぬ地方の人々や、一人步行の充分に出來ぬ老婦人などに、叮嚀にする事が自分の品位の下る理由ではなく、又之れと反對に位置あり身分ある人々を冷淡に取扱つたとい

つて、自分の威嚴が增すといふ理由も御座いますまい。若しも吾々に、周圍の人々は皆同一の日本人であるといふ感じがあつたならば、否寧お互に人間であるといふ感じが深ければ、自然に是等の人々を親切に取扱ふ樣になるのであります。吾々は自分自身も人間らしくなり、他人をも亦人間として敬愛するのは、實に社會一般に對する大切な義務で、此精神を有つと否とで、人々互の關係は大に違ふのであります。吾々は親子とか、姉妹とか、又は友人とかいふ樣な特別の關係ある者のみでなく、全く不見不識の人々に對して、常に親切であるやうな習慣をつけたい者であります。

湯臺叢話（其八）

谷澤直秀

(三一)ウプサラ大學の敎授がエデンの園はスウエーデン國にあつたらうと云ふ說を出した、其譯はと聞くと自分の國がつよくてどうも他にあつたらしく思はれないと云ふにあるそうです。

(三二)ホーヘンツオレルン博物館にフリードリヒ大王の像があります。其下に勅筆の句がある。其は「朕には疲れる暇がない」イヒ、ハーベ、カイネ、ツアイト、ミユーデ、ツー、ザイン）かう充實した生活は安閑たるものよりも遙に尊いではありませんか

(三三)ドレースデンの有名なラフアエルの聖母の畫は全市の寶物で全市の價をもつても賣ることが出來ないと云つてゐるのですが其初めて獨乙に來たとき天覽に供した所が、光線の工合からして玉座の所に其畫を置かなければよく見えない、これは恐多いと躊躇して困却した時、皇帝自身座より下られ「こゝに置け、聖子の前に此座にをるは朕の耻づる所である」との御言葉があつたそうです。

(三四)エーブラハム、リンケンが嘗て自分は他の人からあの人は常に薊を拔いて薔薇を植へる生涯をしたと云はれたいと話したそうです。世の中には薔薇を骨を折つて拔いて薊を植へようと心掛ける人が少くないのは殘念です。

編輯局より

▲上野の彼岸櫻の咲き初めたといふ事は二三日前に聞きました。四月にもなりましたら、諸方の櫻が一時に妍を競ふ事で御座いませう、櫻よ桃よと世の中のうかれて居る間に、編輯局は少しでも雑誌の内容を立派にして皆様の御同情に報いやうと、いろ〳〵の準備に忙殺されて居ります。

▲本號には前號に於て豫告致して置きました通り成女高等女學校長宮田先生の女子解放論及び德富健次郎先生の佐久間大尉の手紙を掲載致しました。前者は現時の婦人問題の根本に向つて解決を與へしもので御座いまして、穩健なる其主旨は吾々の主張が遺憾なく言ひ表されて居るものと信じて居ります、後者に至りては壯烈な死を遂げた佐久間大尉の私的生涯を見る事を得るものでありまして、亡妻を想ひ遺兒を憐むの情は讀み來るものをして眞に落涙を禁ぜざらしむるものがあります。吾々は斯る偉人の熱情を吾新女界に發表する事を得た事を喜びますと同時に御寄贈下すつた德富先生に御禮を申します。

▲御覧の通り本號から表紙を改めました。之は有田画伯の意匠で、石川武美君の御世話で石版にしたもので御座います。

▲本社は從來郡部の巣鴨村にありましたのを、此度都合により事務所と合併する事となりました、即ち

東京市小石川區林町四十三番地
新人社

▲諸種の投書を歡迎致します、特に本誌の讀者諸姉にして、御家庭を持つておゐでになる方々に、日常御生活の中から得らるゝ諸種の御經驗御感想を書き綴つて御投稿下さる事を御願申します。

▲原稿締切は本月十五日、東京麴町區飯田町六丁目二十一番地大塚尙宛御送を願ひます。

本誌定價（一部金拾錢（郵税ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵税ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵税ナシ）
外國行定價（壹部金拾四錢（郵税ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵税ナシ）一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵税ナシ）

廿七字詰行	四分ノ一頁	半頁	一頁	内表紙拾二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金拾圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候
●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候
●振替口座にて御送金の時は手數料壹錢必ずそへらるゝこと
●郵券代用は一割増の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雑誌等は必ず左の宛名に願上候

東京小石川林町四十三番地
新人社
（振替貯金口座一四〇〇五）

明治四十四年三月二十七日印刷
明治四十四年四月一日發行
東京市小石川區林町四十三番地
編輯人兼發行人　海老名彈正
東京市小石川區小日向臺町二ノ廿六
印刷人　相原一郎介
東京市小石川區林町四十三番地
發行所　新人社
東京市赤坂區田町五丁目十一番地
印刷所　齋藤活版所

院長診察、月、水、木、金、午前入院、診後應需、
松田、林、峰間三副長ハ目下當院ニ在勤、

東洋內科醫院

電本　八八八番（病院用）
八九八番（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長　醫學士　高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町相海濱、從停車場半里
電　チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、
院長診察、土曜日午後入院、診後應需、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界

毎月一日一回發行

明治四十四年四月一日發行第參卷第四號